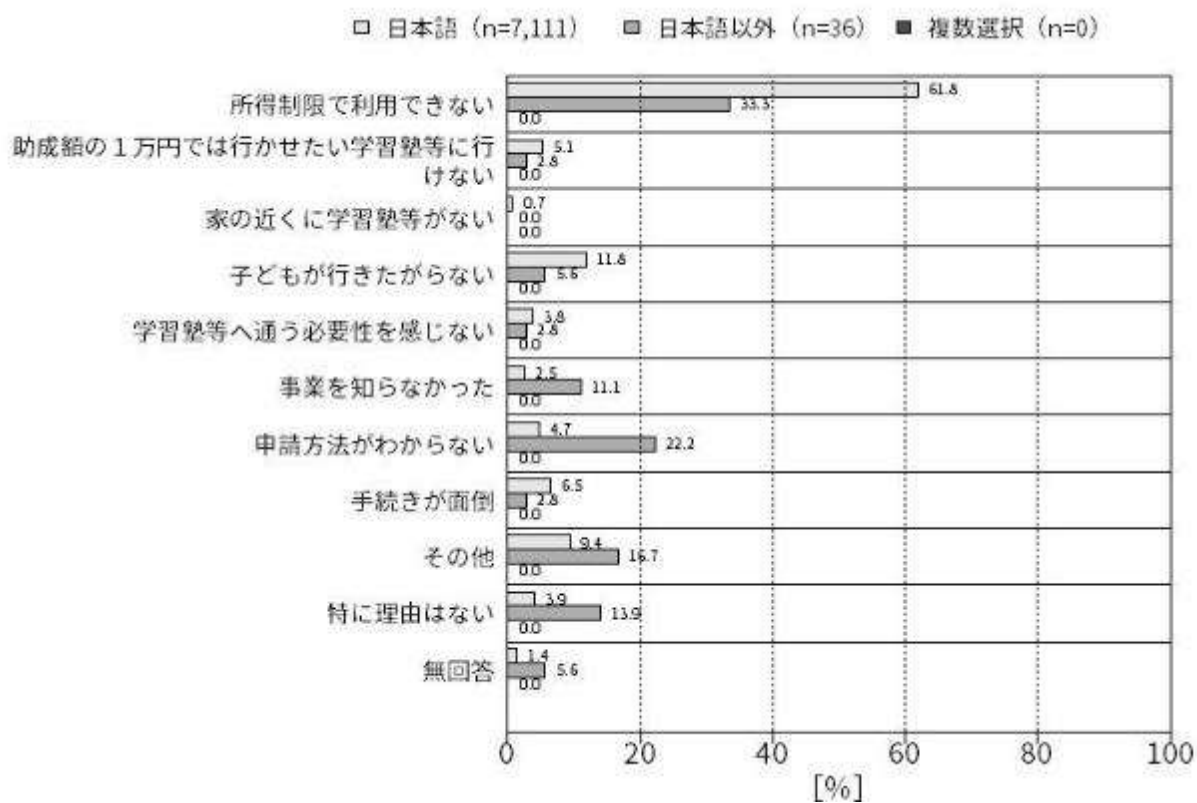


日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由
 (保護者票 問2 × 保護者票 問20)

<大阪市24区>



<大阪市鶴見区>

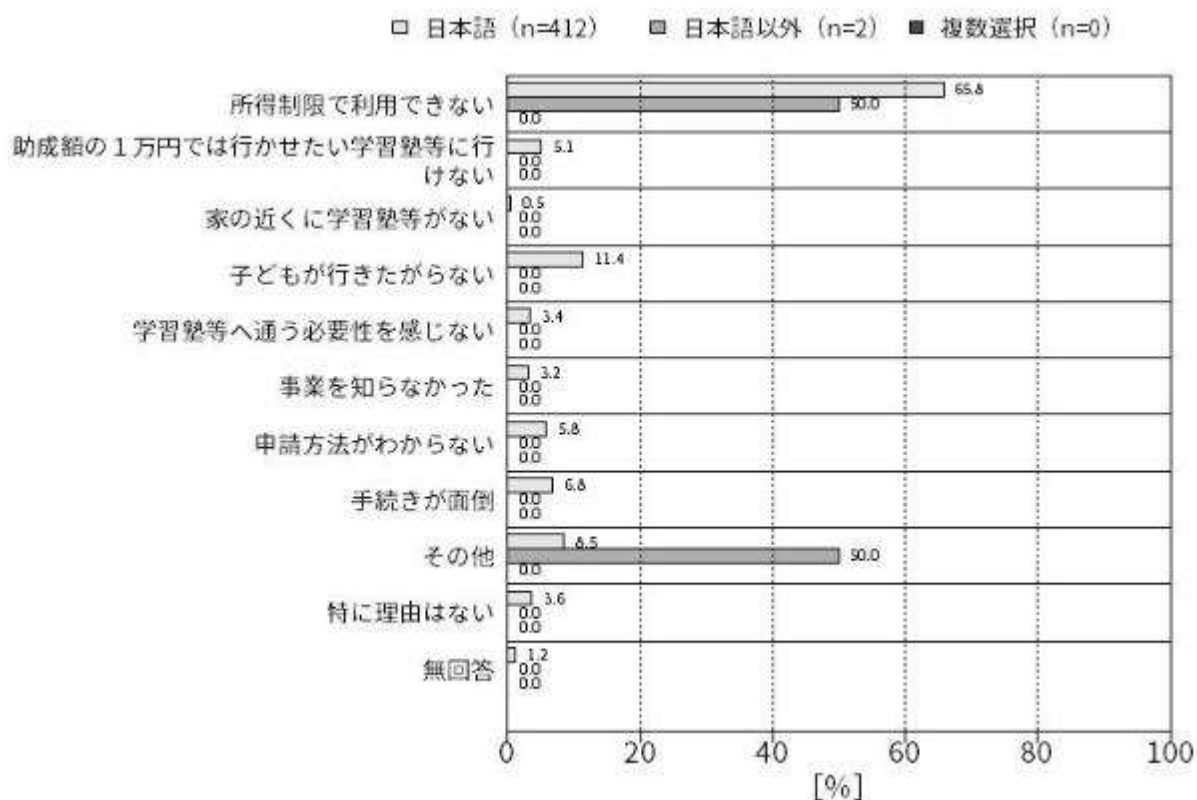


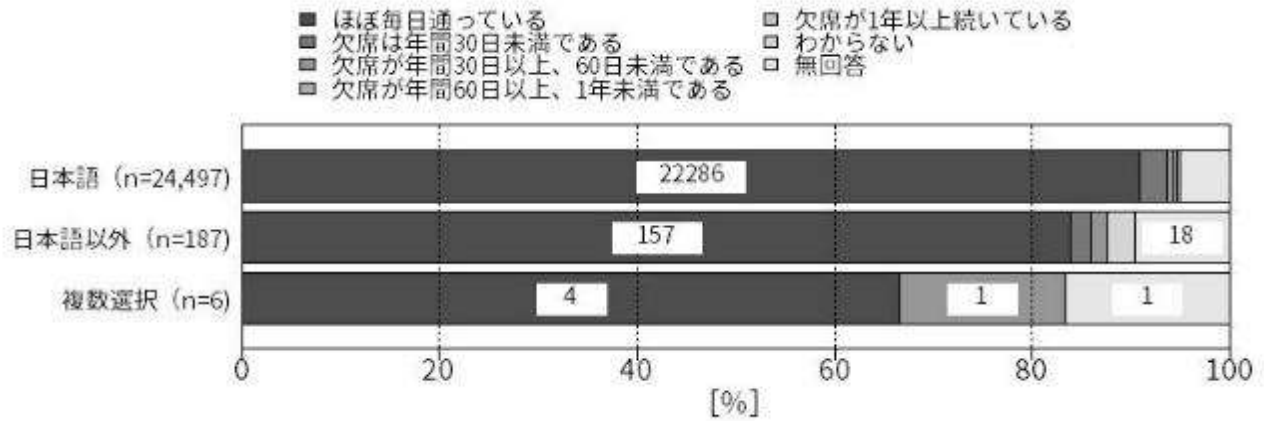
図 280. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

日本語以外と回答した人数が2名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

(保護者票 問2 × 保護者票 問21)

<大阪市24区>



<大阪市鶴見区>

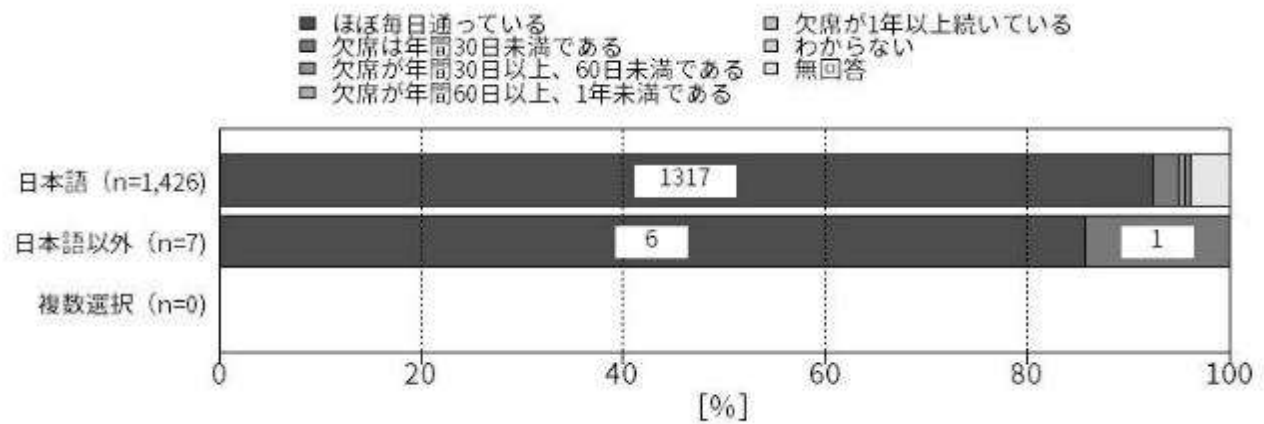


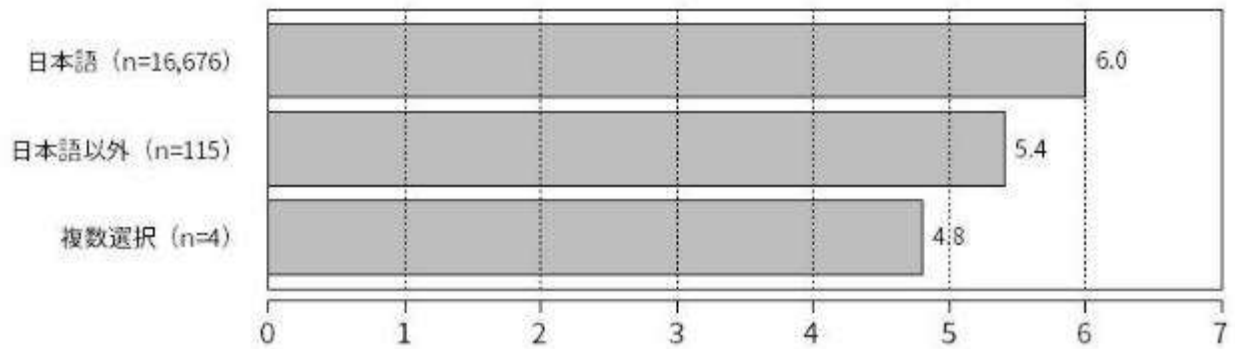
図 281. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

日本語以外と回答した人数が7名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点
(保護者票 問 2 × 保護者票 問 23①～⑦)

※「支えてくれる人得点」については図 198 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

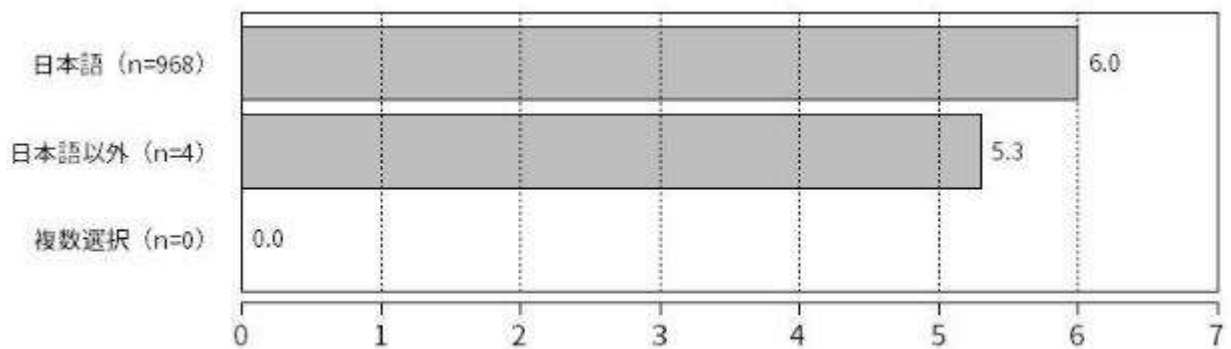


図 282. 日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点

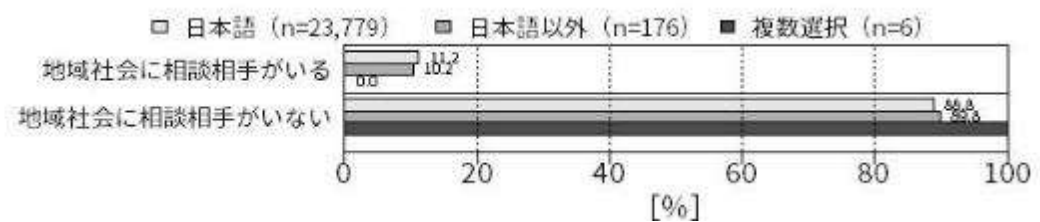
日本語以外と回答した人数が 4 名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

(保護者票 問2 × 保護者票 問24)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問いに対し、「学校の先生やスクールカウンセラー」「子育て講座(小・中学生を持つ保護者を対象)等を担当するリーダーや職員等」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体」「民間のカウンセラー・電話相談」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪市24区>



<大阪市鶴見区>

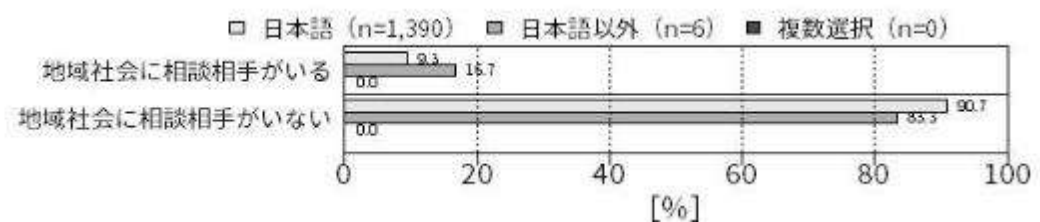


図 283. 日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

日本語以外と回答した人数が6名と少なく、傾向を述べることはできない。

<家庭生活・学習に関する考察>

家庭生活・学習について、困窮度の視点から結果を述べる。まず、おうちの大人との関わりを見ると、困窮度が高くなるにつれて、朝食を一緒に摂ることが「ほとんどない」または「まったくない」と回答する割合が増加する（中央値以上群では 25.1%、困窮度Ⅰ群では 38.4%）。また宿題をみてもらうことにおいても「ほとんど毎日」と回答する割合が、困窮度の高まりとともに減少する傾向にあった。次に子どもの学習については、困窮度が高まるにつれて、1 日当たりの勉強時間に関し「まったくしない」と回答する子どもの割合は増加した（中央値以上群では 6.1%、困窮度Ⅰ群では 16.3%）。それに関連して学校の勉強について「よくわかる」と回答する子どもの割合は減少し、「あまりわからない」「ほとんどわからない」との回答は増加した（中央値以上群では 11.4%、困窮度Ⅰ群では 27.9%）。

また、生活習慣との関連で勉強と読書の習慣を見ると、起床時間が決まっていない子ども、朝食を摂るのが週 5 回以下の子どものにおいては、勉強・読書ともに「まったくしない」の回答の割合が高く、特に同じ時刻には起きていない子どもにおいては、授業以外の勉強時間は「まったくしない」と回答した割合は 17.2% と高かった（同じ時刻に起きている群は 8.4%）。

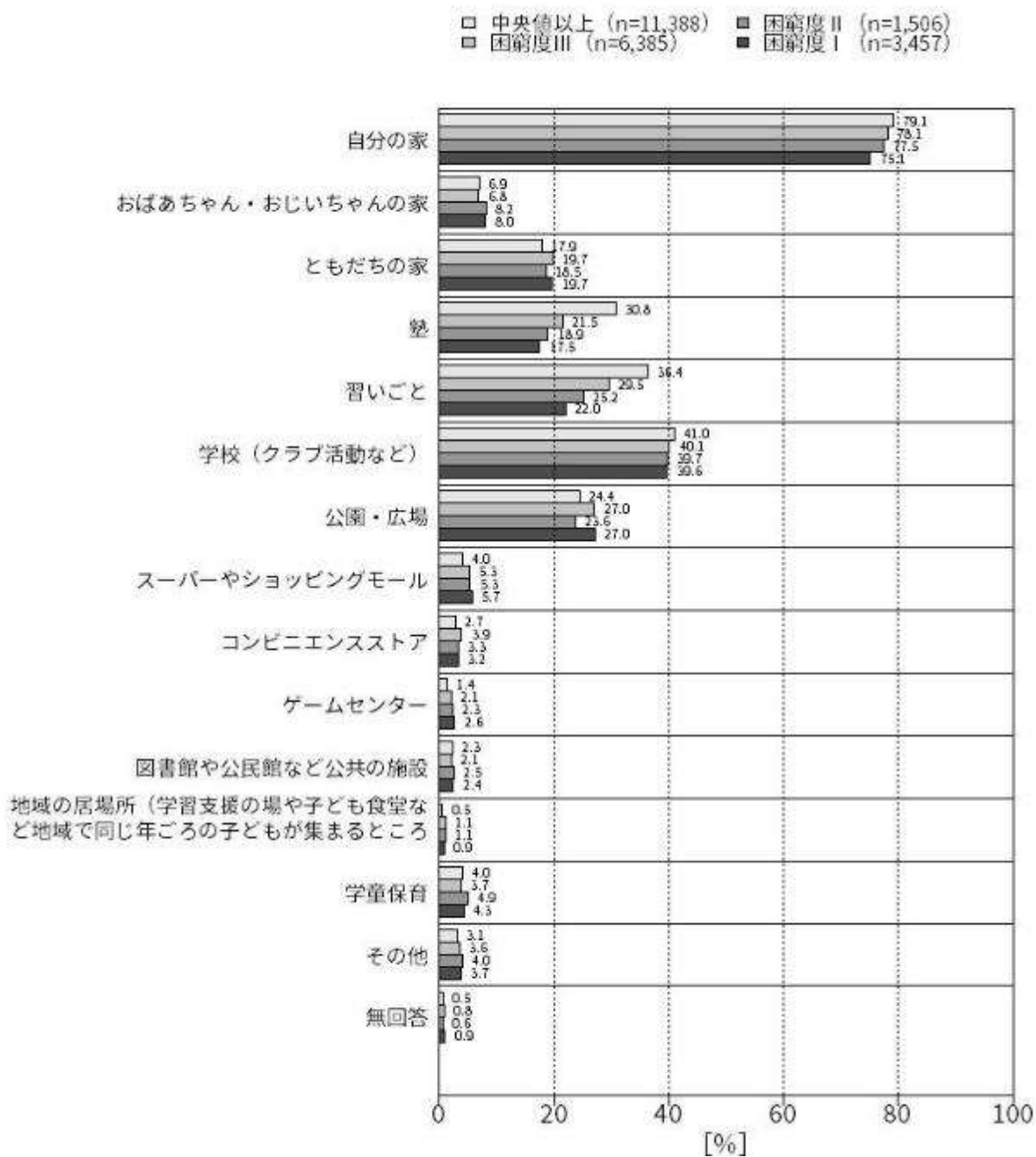
子どもの将来に関して、困窮度が高まるにつれて「大学・短期大学」までと答える子どもの割合が減少し（中央値以上群では 44.4%、困窮度Ⅰ群では 23.8%）、「高校」までと答える割合が増加した（中央値以上群では 11.2%、困窮度Ⅰ群では 25.0%）。保護者の回答も同じような傾向を示したが、子ども以上に顕著だった（「大学・短期大学」までと答える割合：中央値以上群では 75.4%、困窮度Ⅰ群では 38.2%。「高校」までと答える割合：中央値以上群では 9.1%、困窮度Ⅰ群では 35.3%）。

子どもの遅刻状況について「遅刻はしない」と答える割合は困窮度が高まるにつれて減少する傾向にあり、「毎日またはほとんど毎日」と答える割合は増加する傾向にあった。週 1 回以上遅刻する子どもに着目すると、保護者と子どもの関わりにおいて、朝食を一緒に食べたり、夕食を一緒に食べたり、学校の話をしたり、社会の話をしたりすることが「ほとんど毎日」と回答する割合が、遅刻はしない群に比べ低かった。また遅刻はしない群に比べて週 1 回以上遅刻する子どもは「おうちのこと」「学校や勉強のこと」で悩んでいることが多かった。なお通学状況についても、困窮度が高まるにつれて「ほぼ毎日通っている」と答える割合が減少する傾向にあった。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後に過ごす場所（子ども票 問 13）

<大阪市 24 区>



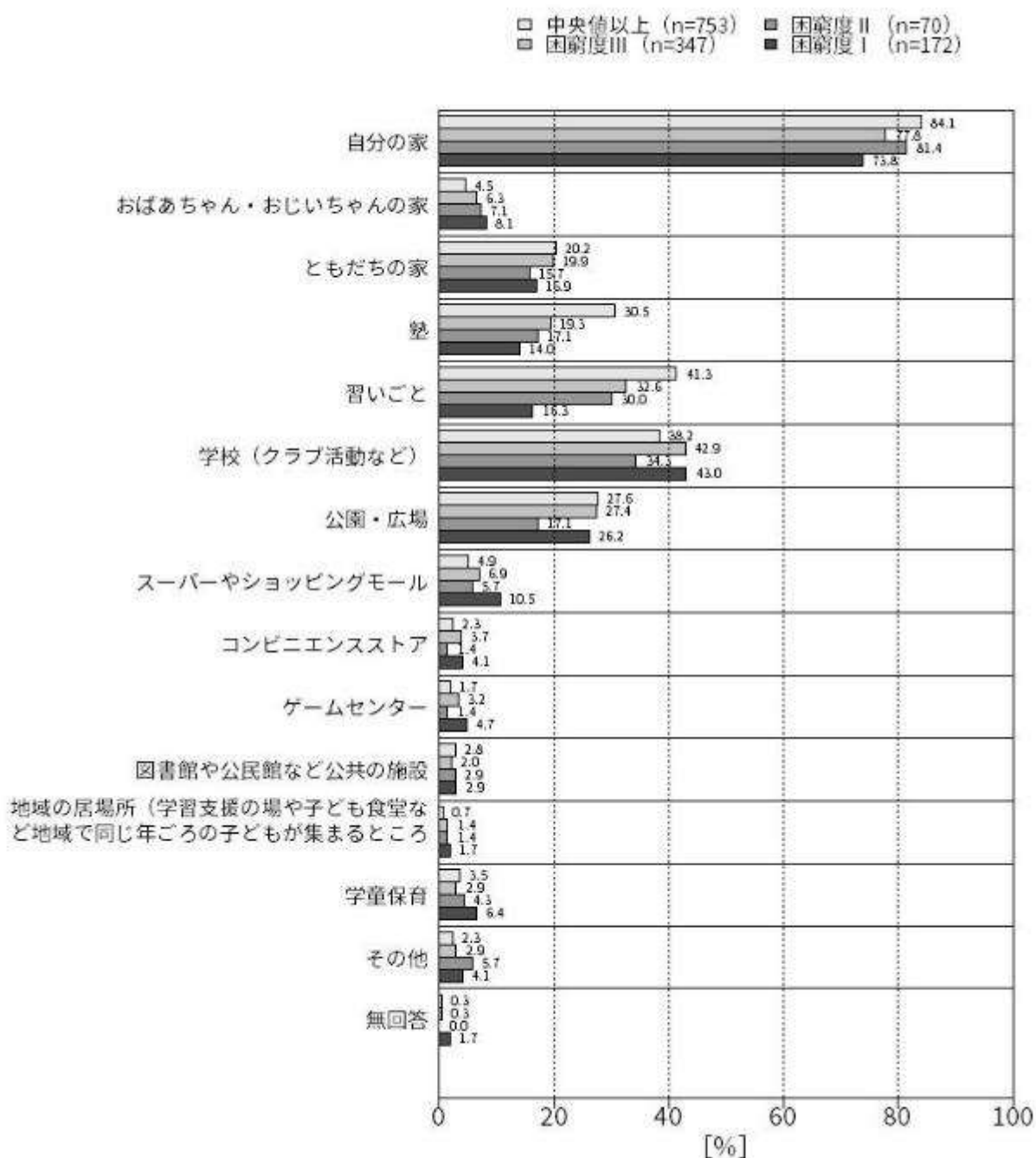
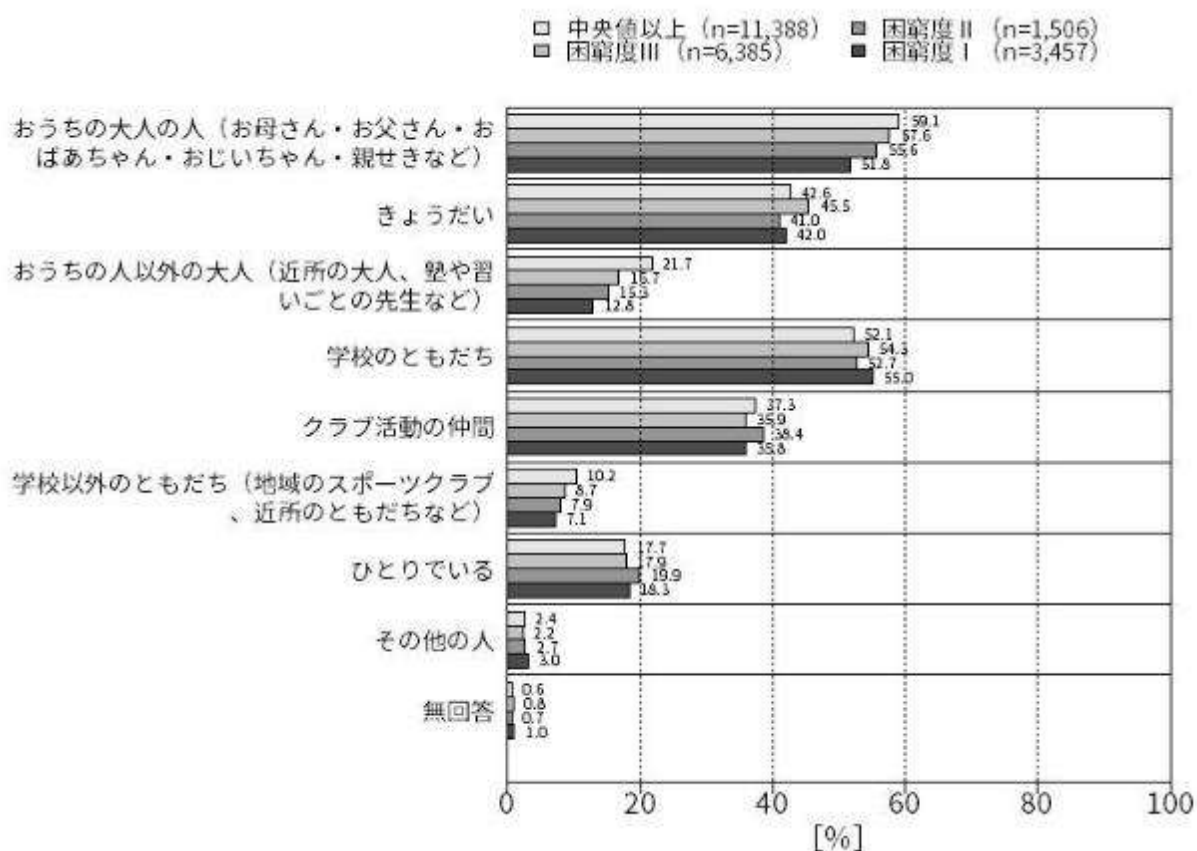


図 284. 困窮度別に見た、放課後に過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「ゲームセンター」4.7%（中央値以上群に対して、2.8倍）、「地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところ）」1.7%（2.4倍）、「スーパーやショッピングモール」10.5%（2.1倍）、となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また、中央値以上群では「習いごと」41.3%（困窮度Ⅰ群に対して、2.5倍）、「塾」30.5%（2.2倍）、「ともだちの家」20.2%（1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人（子ども票 問 12）

<大阪市 24 区>



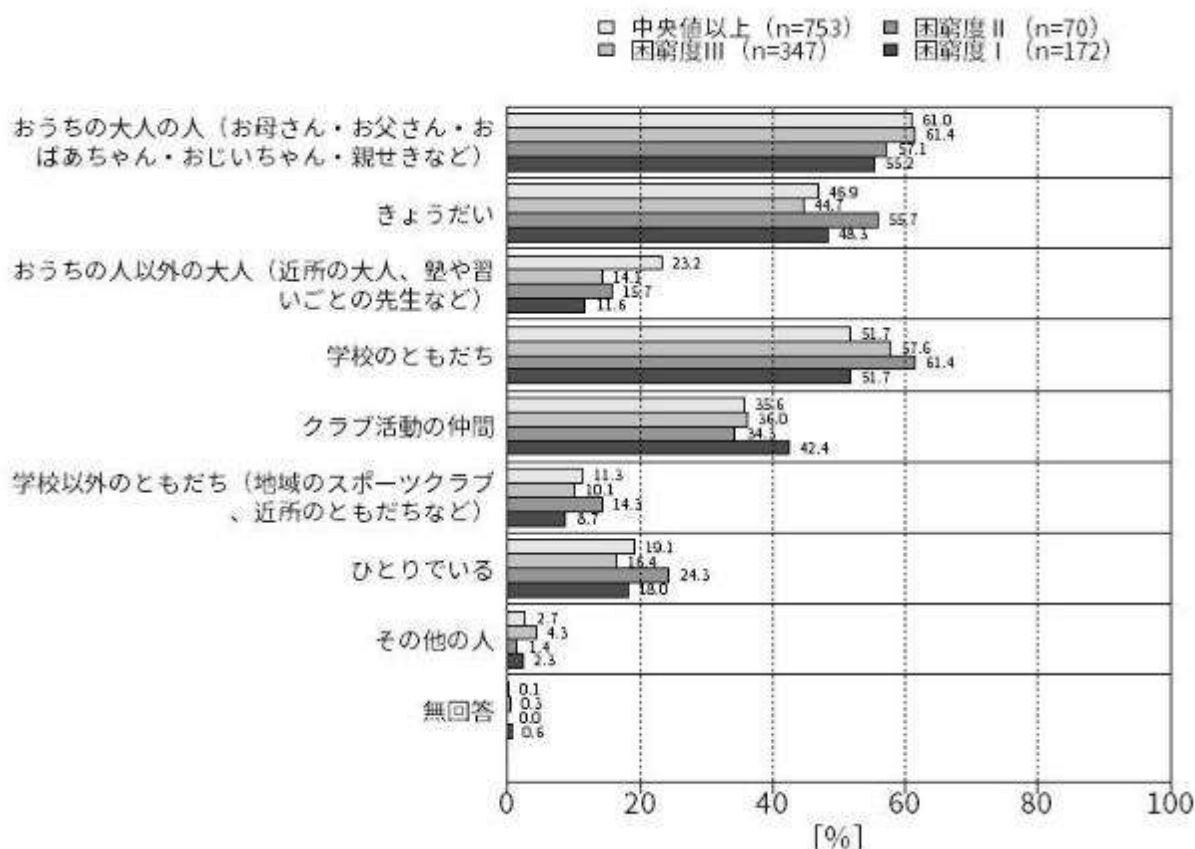
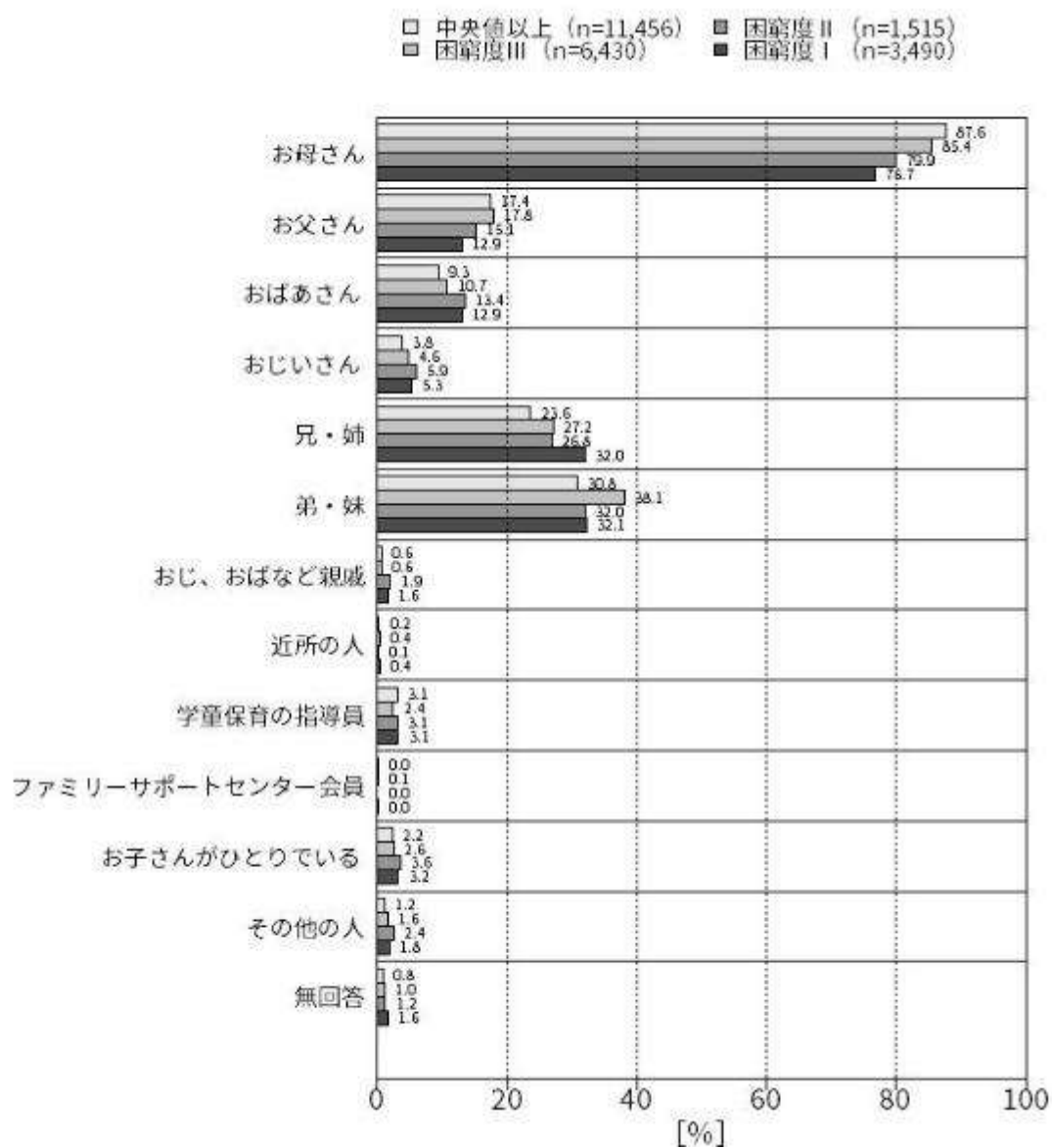


図 285. 困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「クラブ活動の仲間」42.4%（中央値以上群に対して、1.2倍）と高く、中央値以上群では「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」23.2%（困窮度Ⅰ群に対して、2倍）、「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」11.3%（1.3倍）、「その他の人」2.7%（1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票 問 11）

<大阪市 24 区>



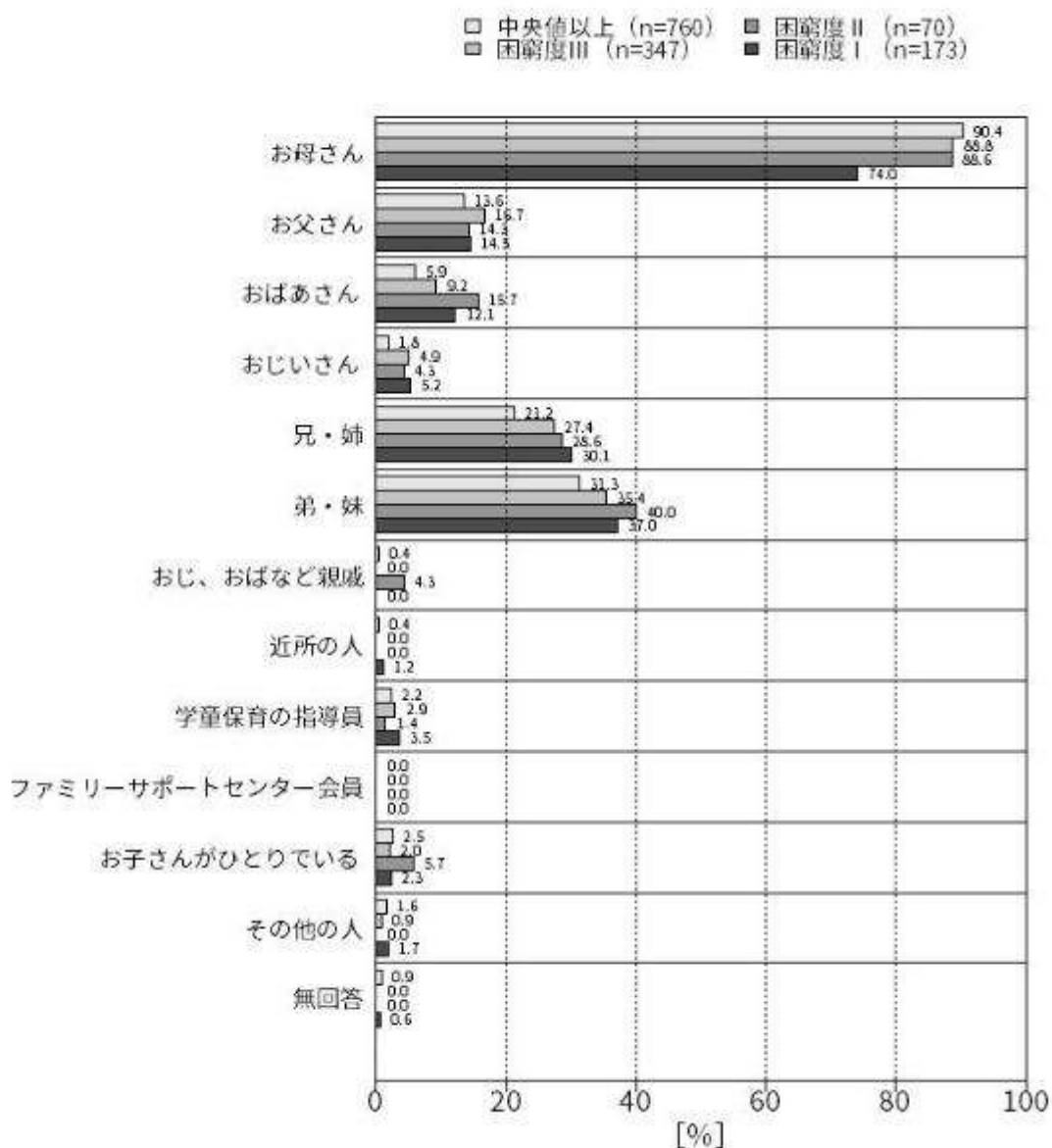
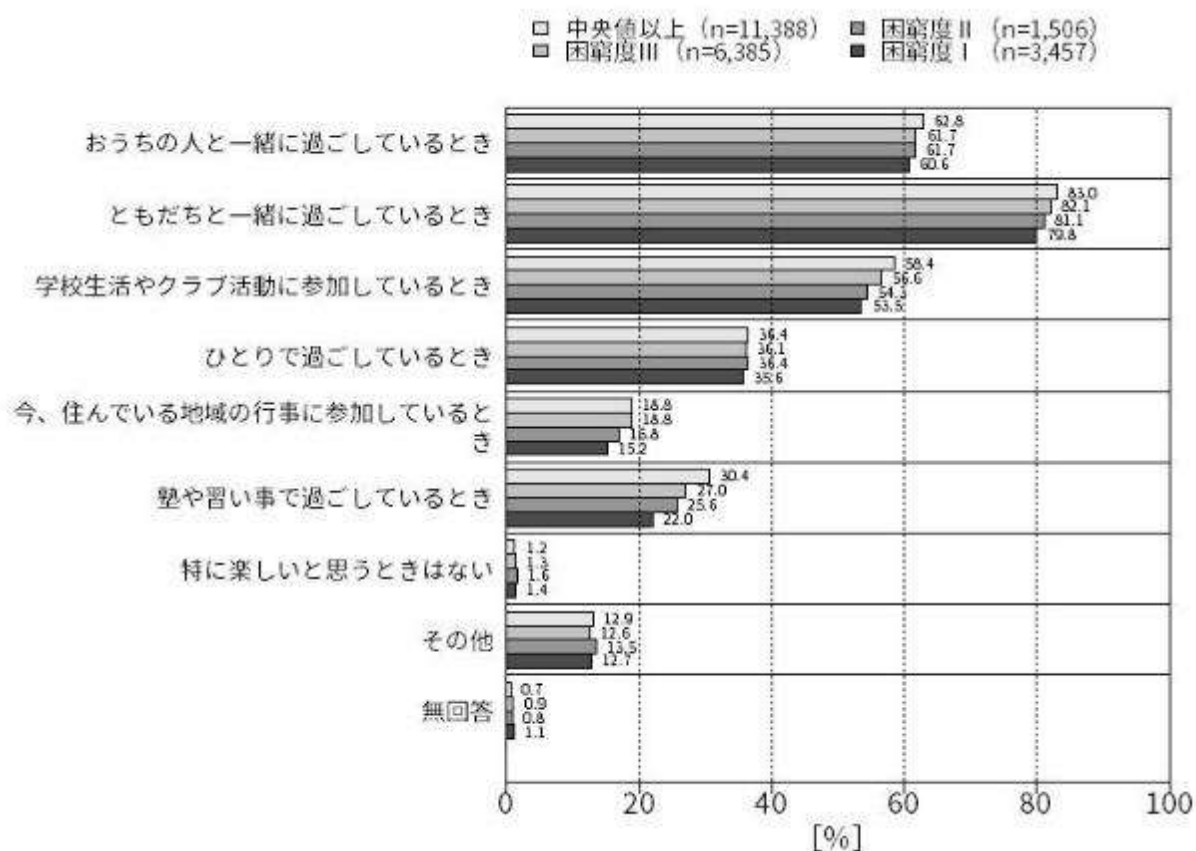


図 286. 困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

困窮度別に保護者が放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「近所の人」1.2%（中央値以上群に対して、3倍）、「おじいさん」5.2%（2.9倍）、「おばあさん」12.1%（2.1倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票 問 11）

<大阪市 24 区>



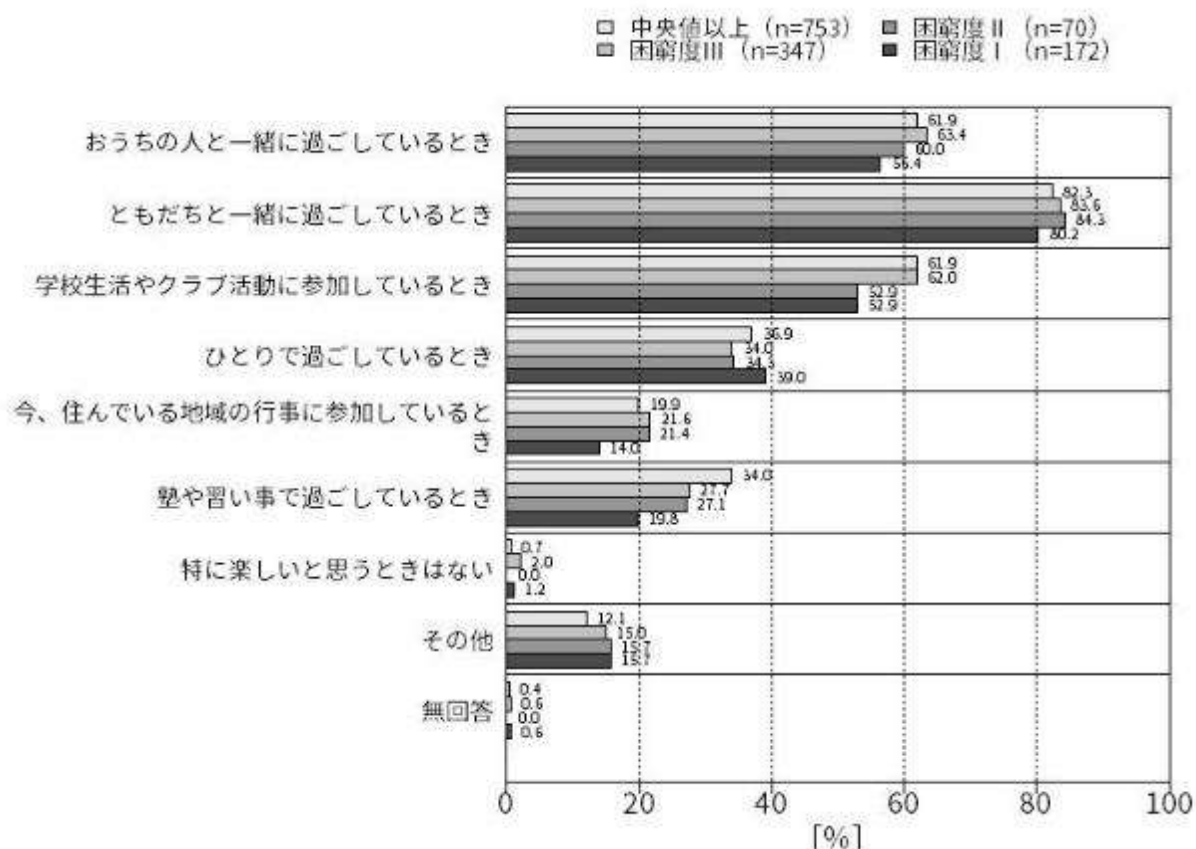
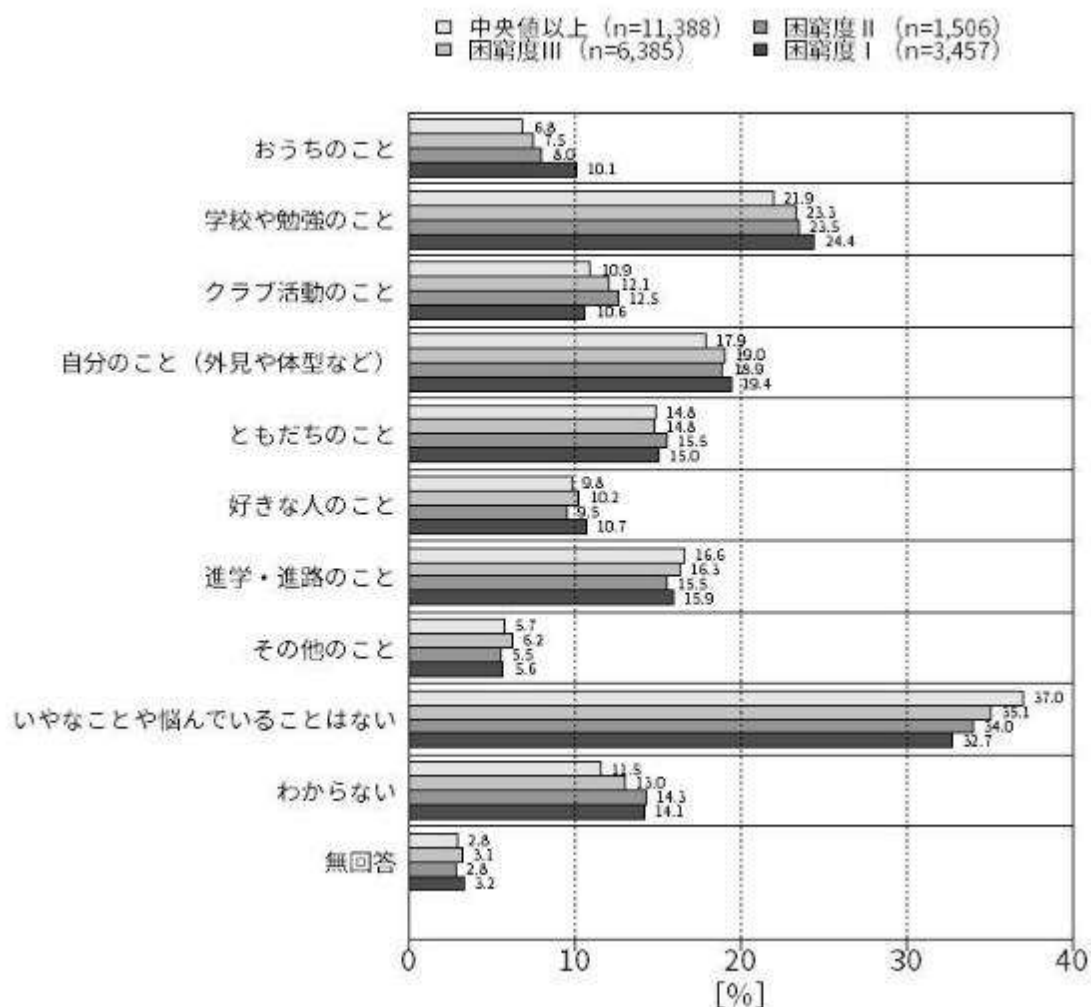


図 287. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「特に楽しいと思うときはない」1.2%（中央値以上群に対して、1.7倍）、「その他」15.7%（1.3倍）が高かった。

困窮度別に見た、悩んでいること（子ども票 問 21）

<大阪市 24 区>



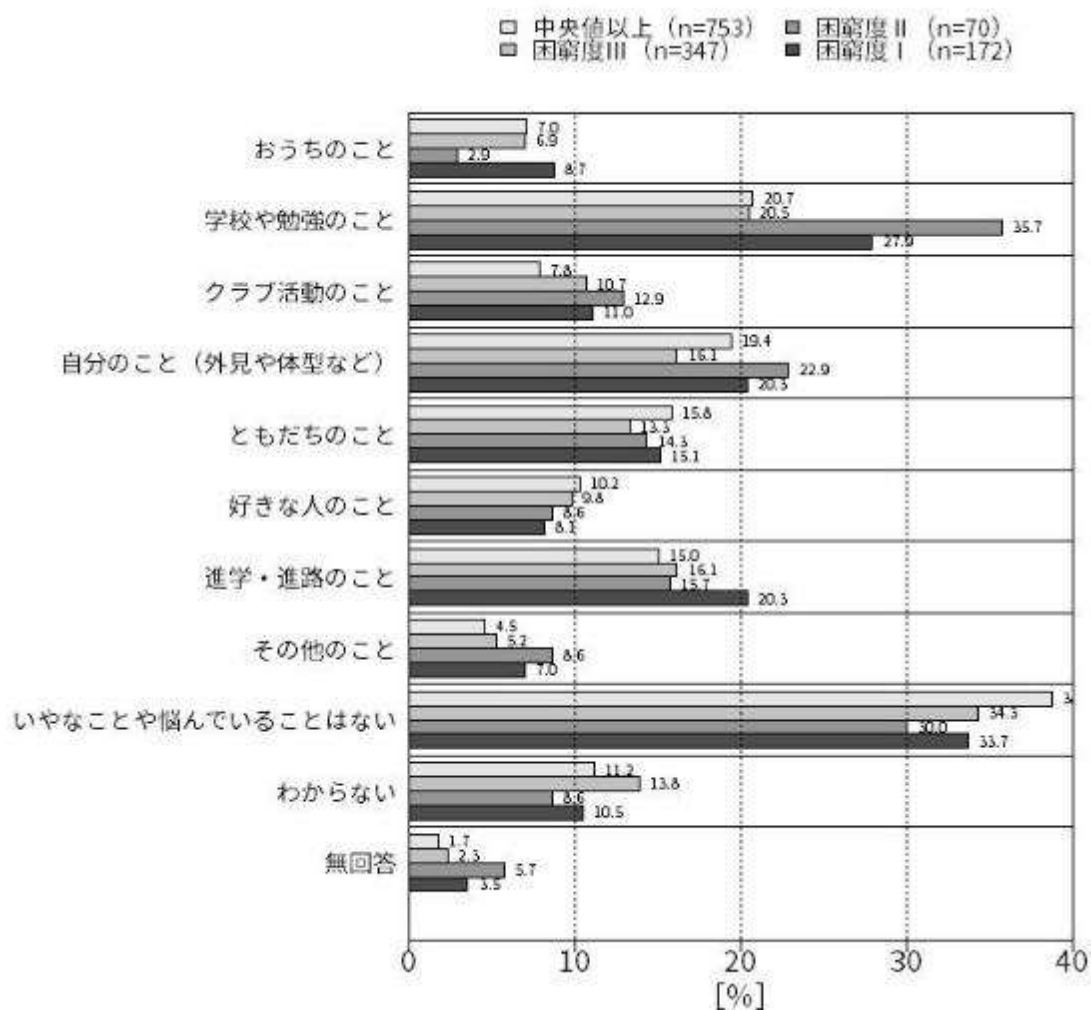
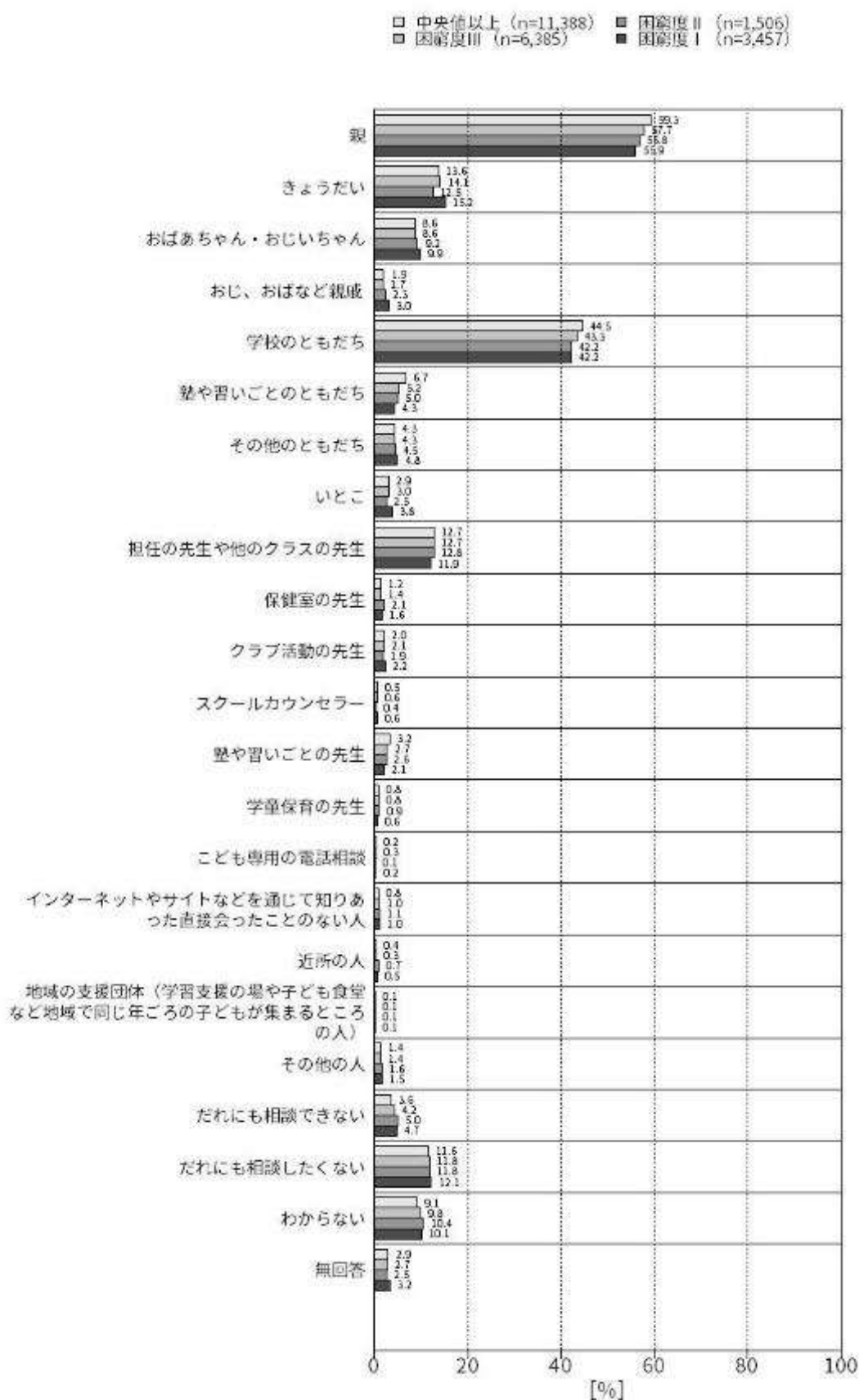


図 288. 困窮度別に見た、悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「その他のこと」7%（中央値以上群に対して、1.6倍）、「クラブ活動のこと」11%（1.4倍）、「進学・進路のこと」20.3%（1.4倍）が高く、中央値以上群では「好きな人のこと」10.2%（困窮度Ⅰ群に対して、1.3倍）、「いやなことや悩んでいることはない」38.8%（1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票 問 22）

<大阪市 24 区>



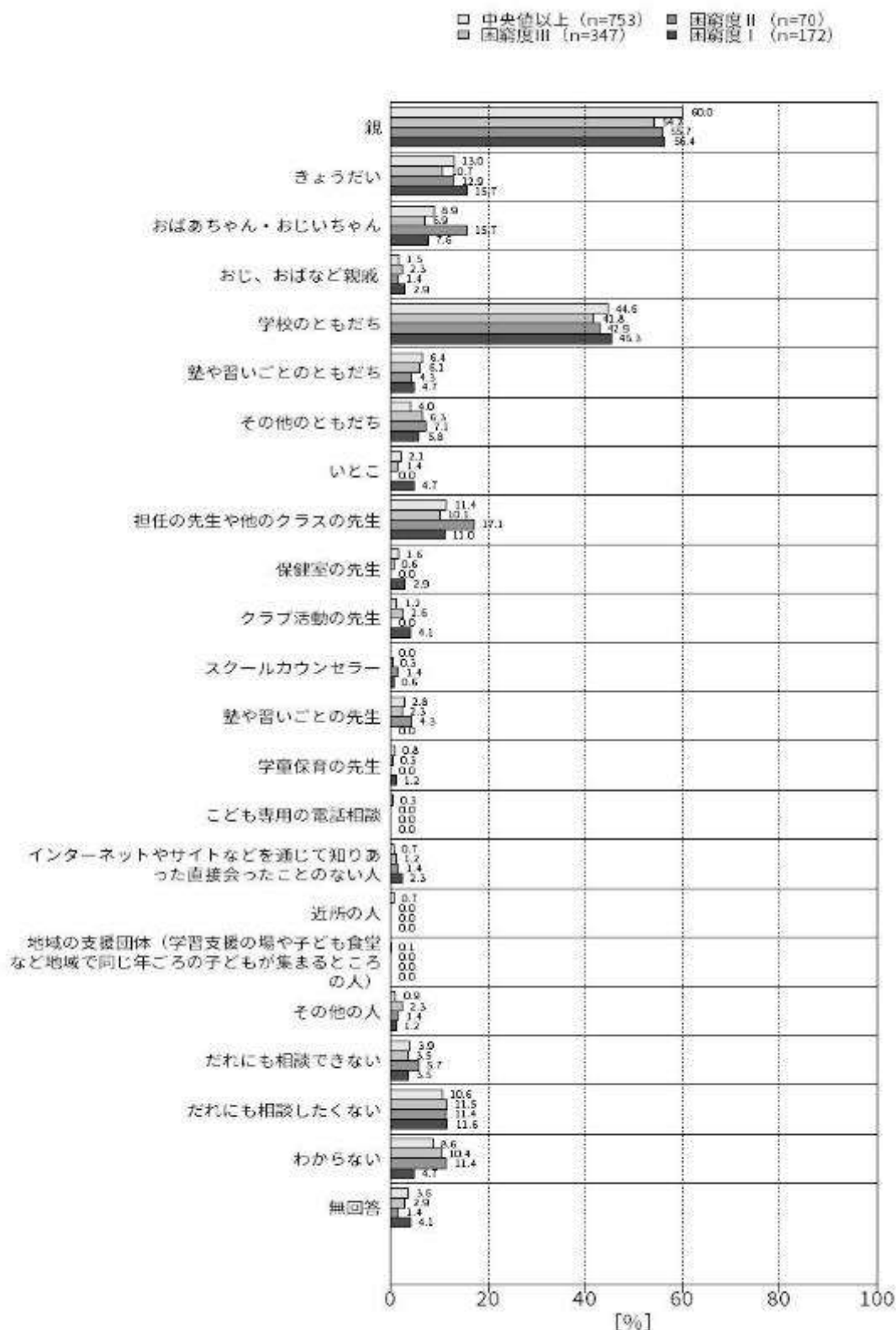
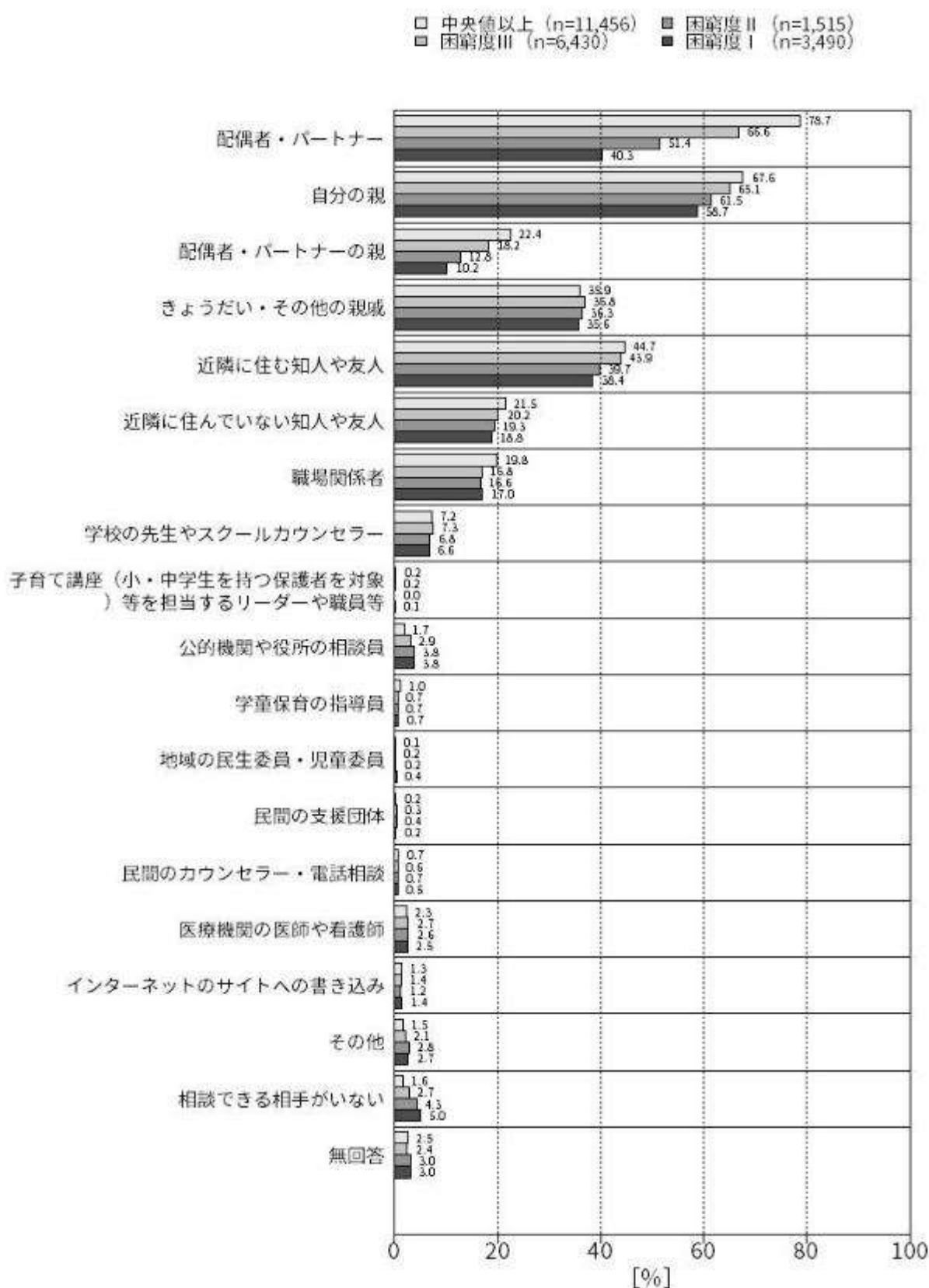


図 289. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「クラブ活動の先生」4.1%（中央値以上群に対して、3.4倍）、「インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人」2.3%（3.3倍）、「いとこ」4.7%（2.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、困ったときの相談先（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

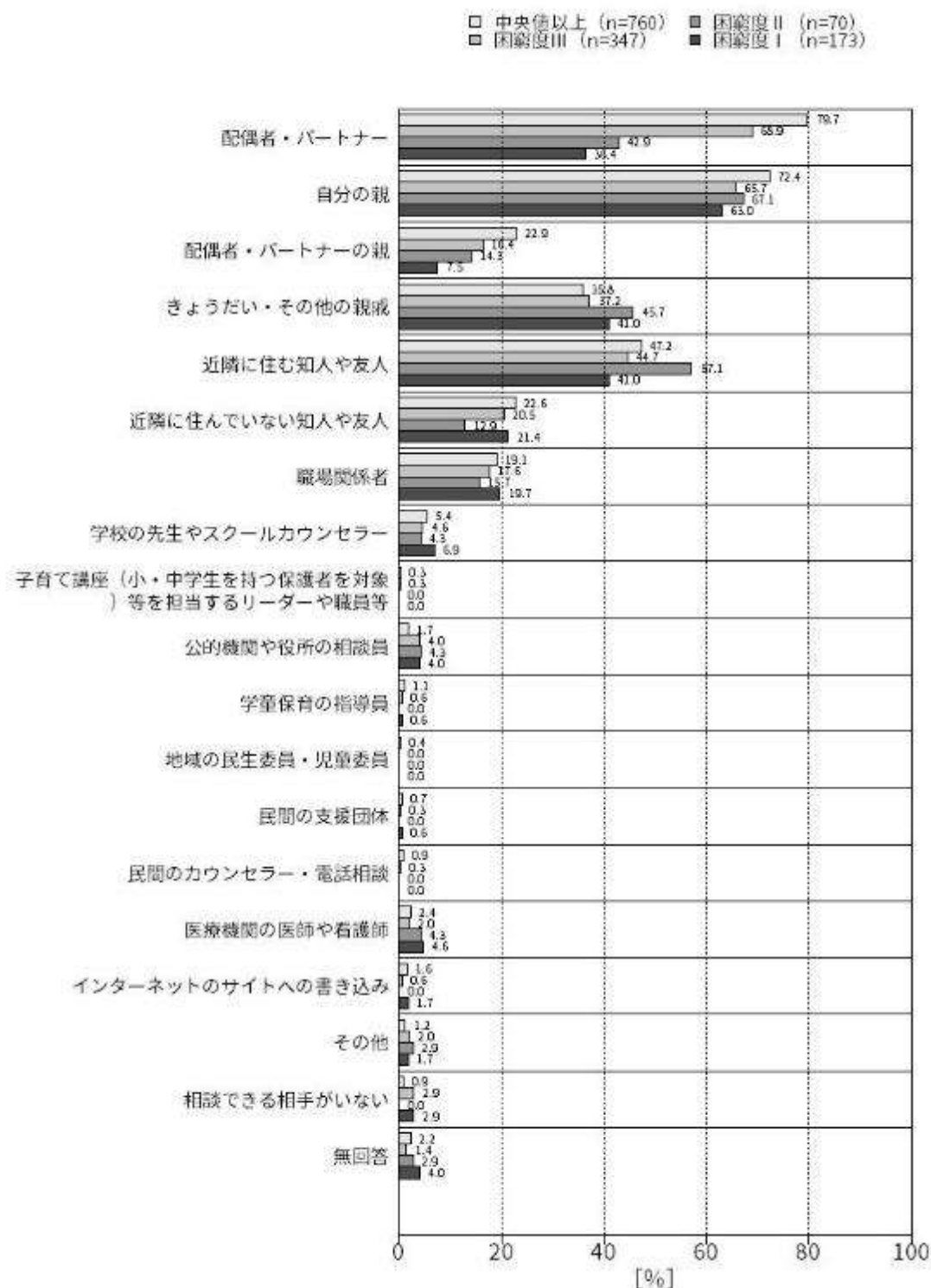
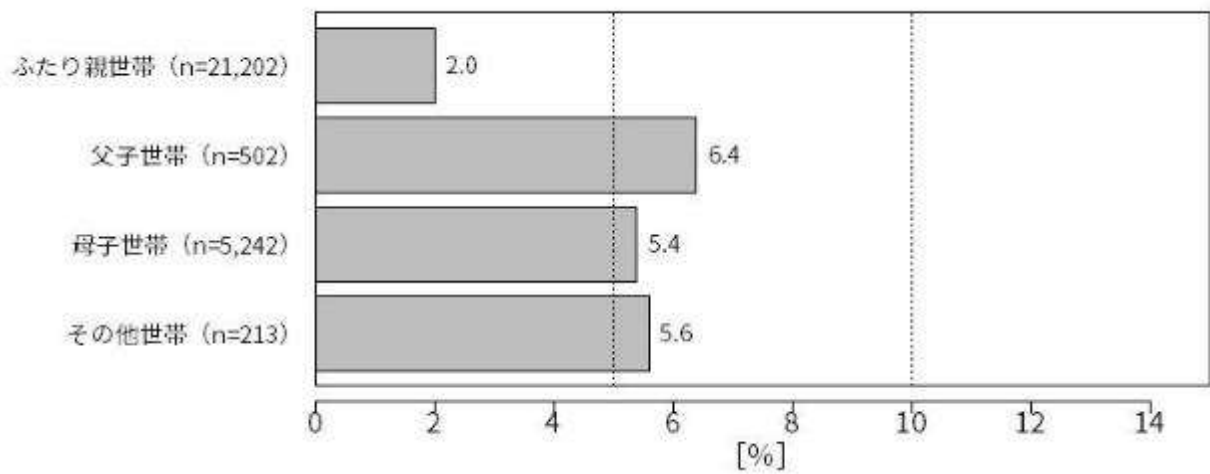


図 290. 困窮度別に見た、困ったときの相談先

困窮度別に保護者の困ったときの相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」2.9%（中央値以上群に対して、3.2倍）、「公的機関や役所の相談員」4%（2.4倍）、「医療機関の医師や看護師」4.6%（1.9倍）が高かった。さらに、中央値以上群では「配偶者・パートナー」と回答した割合が79.7%だったのに対して、困窮度Ⅰ群では36.4%だった。

世帯構成別に見た、相談相手のいない割合（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

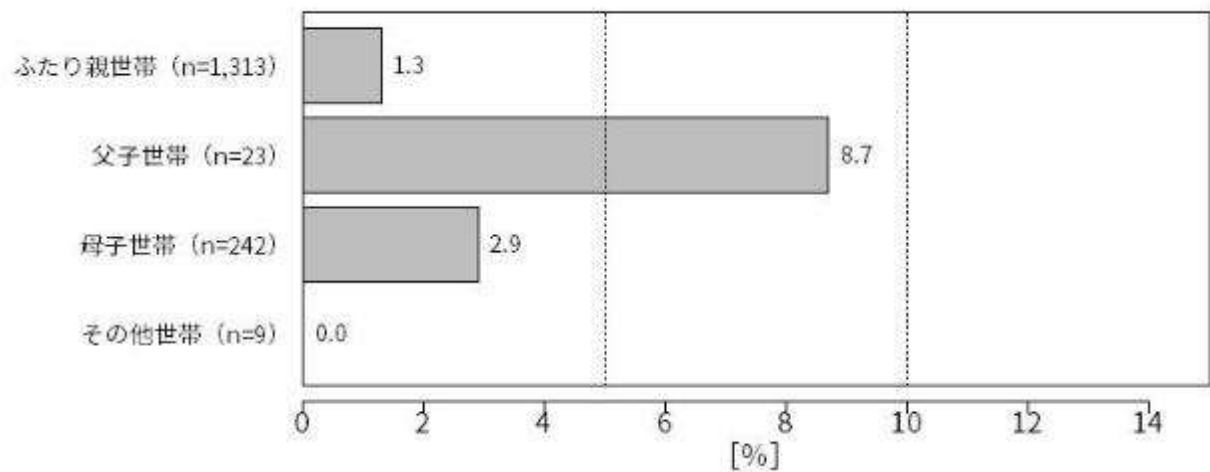


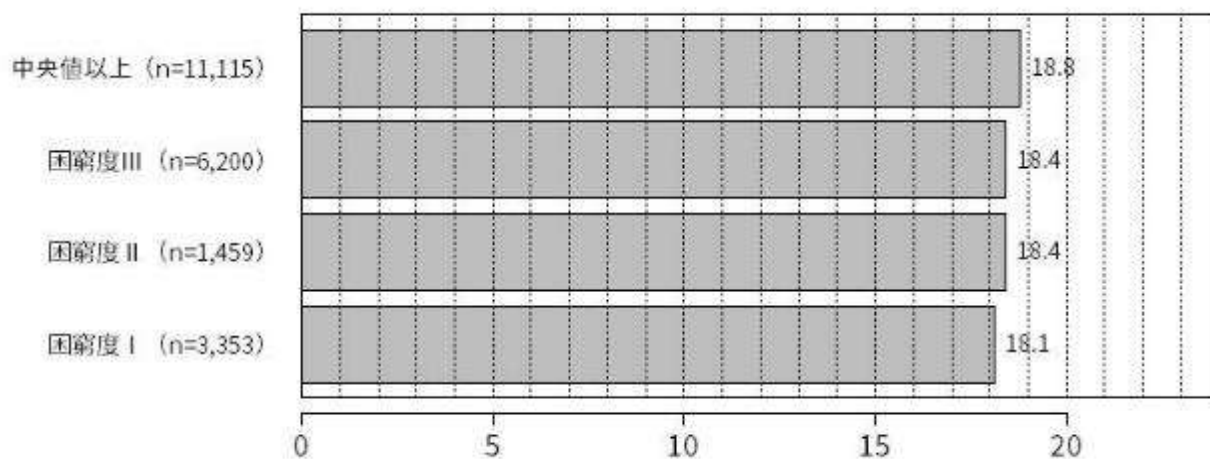
図 291. 世帯構成別に見た、相談相手のいない割合

世帯構成別に保護者の困ったときの相談先を見ると、「相談相手がいない」と回答した人は、ふたり親世帯で 1.3%、父子世帯で 8.7%、母子世帯で 2.9%と高かった。

困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー（子ども票 問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

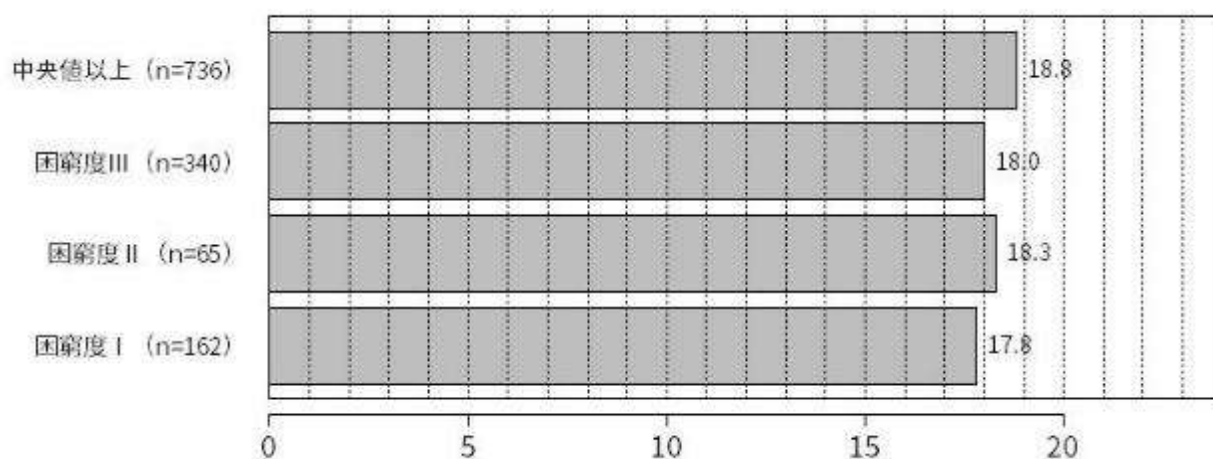


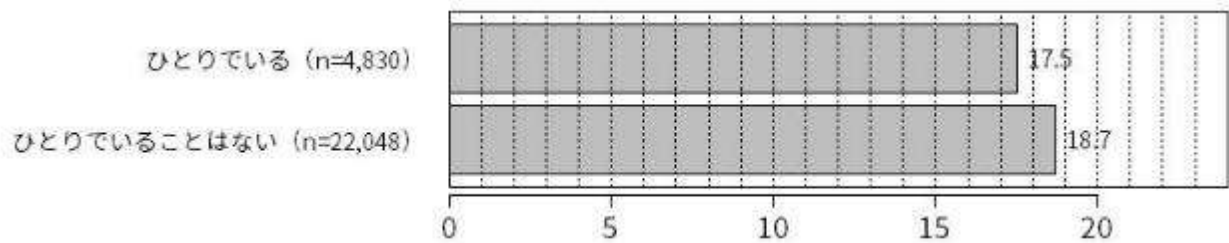
図 292. 困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均値は、中央値以上群で 18.8 点、困窮度Ⅲ群で 18 点、困窮度Ⅱ群で 18.3 点、困窮度Ⅰ群で 17.8 点であった。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー
(子ども票 問 12 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

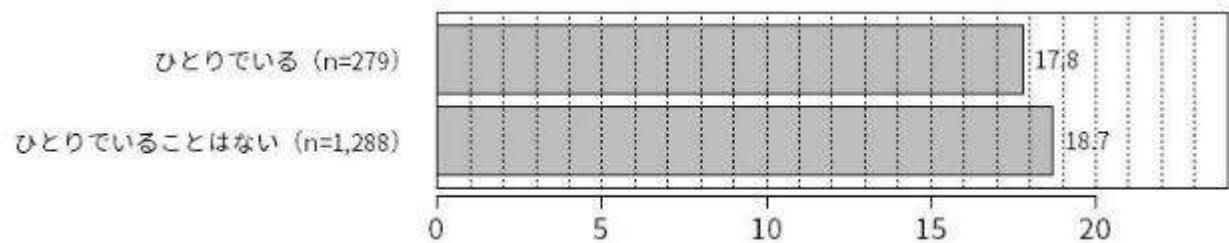


図 293. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方は 17.8 点、ひとりでいることはない子どもは 18.7 点であった。

困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 22 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

※「あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談しますか。(だれに話しますか。)」に対し、以下のようにまとめた。

家族・親戚に相談：「親」「きょうだい」「おばあちゃん・おじいちゃん」「おじ・おばなど親戚」

「いとこ」のうち1つ以上に回答した人

ともだちに相談：「学校のともだち」「塾や習い事のともだち」「その他のともだち」のうち1つ以上に回答した人

先生に相談する：「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」「クラブ活動や部活の先生」のうち1つ以上に回答した人

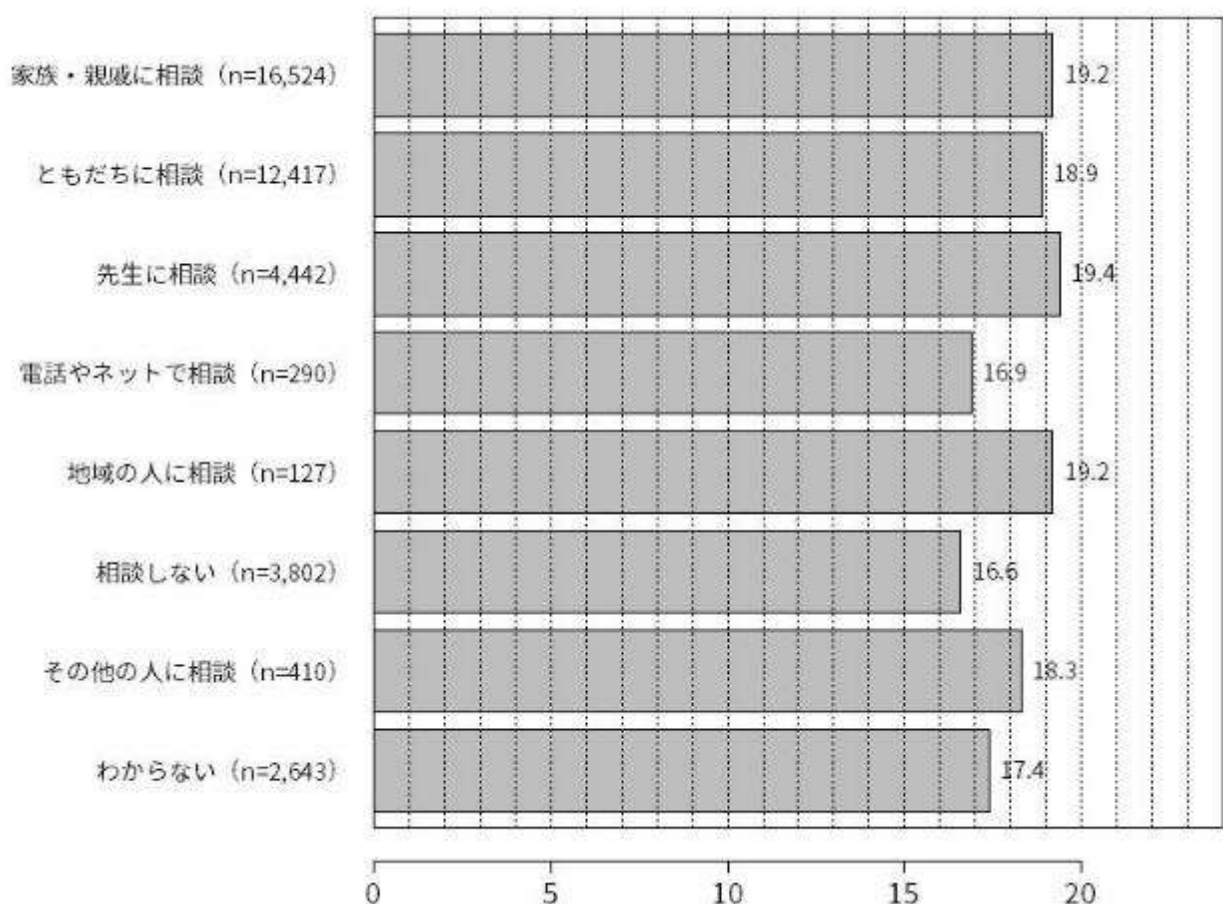
「スクールカウンセラー」「塾や習いごとの先生」「学童保育、児童いきいき放課後事業の先生」のうち1つ以上に回答した人

電話やネットで相談する群：「子ども専用の電話相談」「インターネットやサイトを通じて知り合った直接会ったことのない人」のうち1つ以上に回答した人

地域の人に相談する群：「近所の人」「地域の支援団体」のうち1つ以上に回答した人

相談しない群：「だれにも相談できない」「だれにも相談したくない」のうち1つ以上に回答した人

<大阪市 24 区>



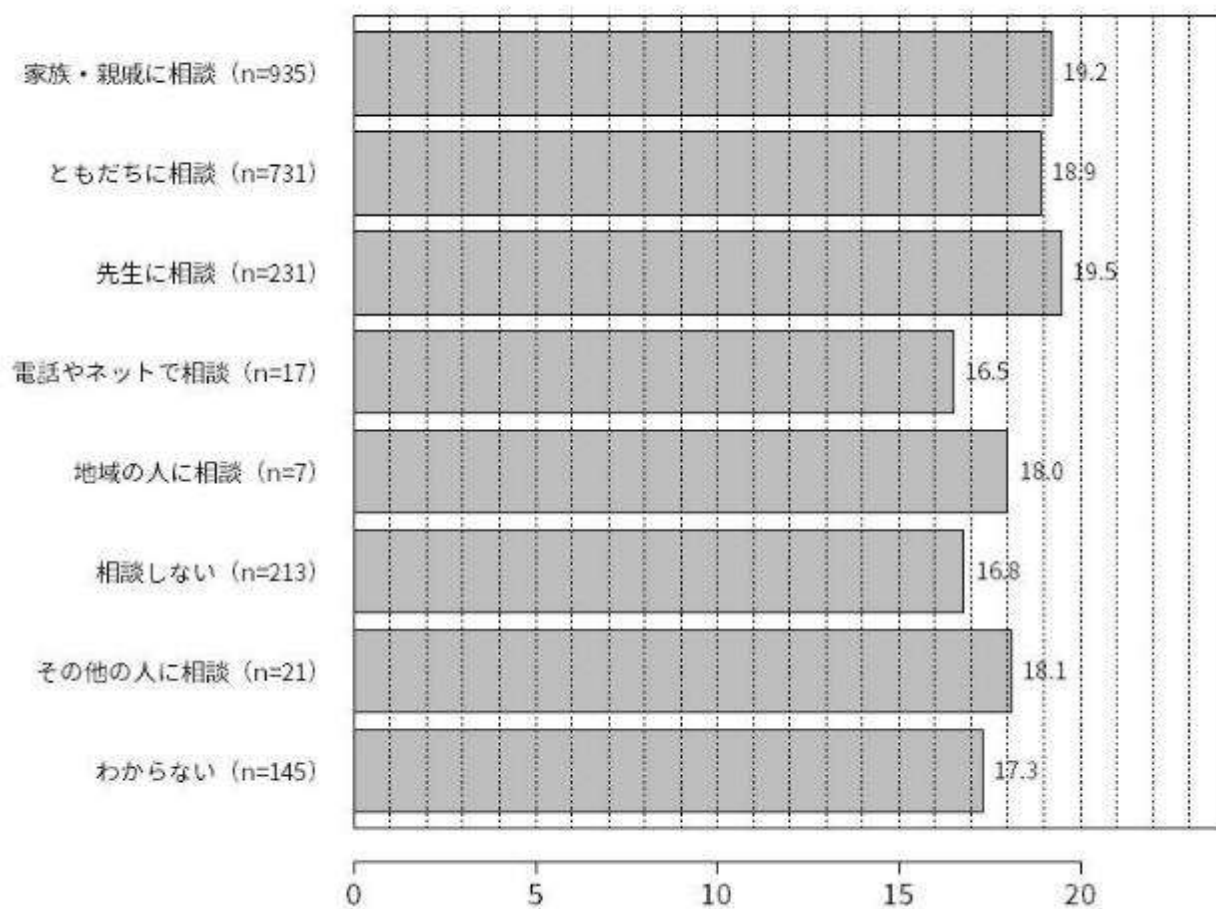


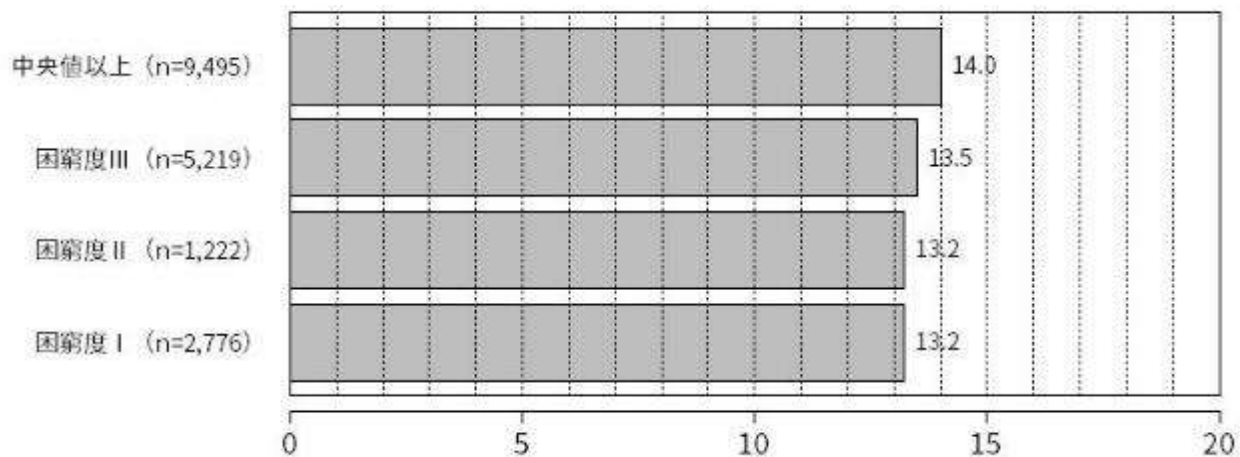
図 294. 困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）によって子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、低い順に「電話やネットで相談」16.5 点、「相談しない」16.8 点、「わからない」17.3 点であった。

困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票 問 29①～⑤）

※保護者のセルフ・エフィカシーについては図 197 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

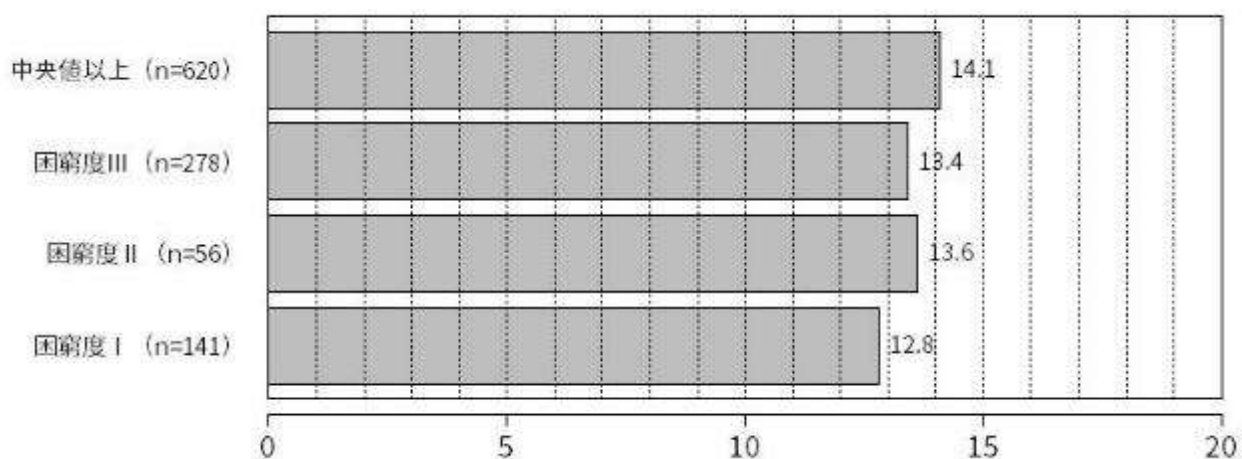


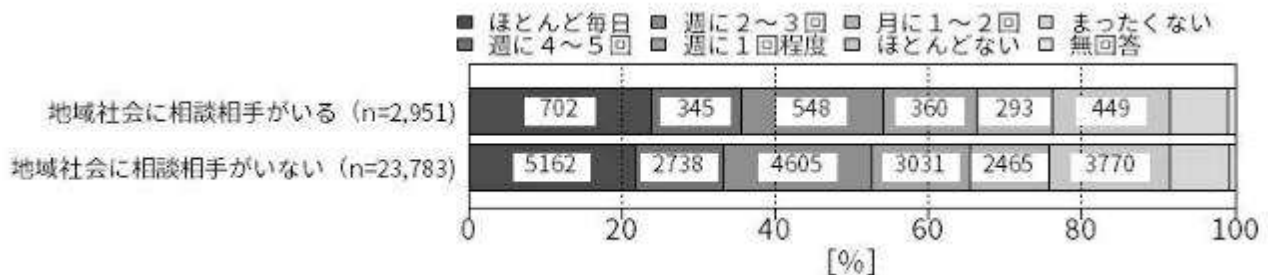
図 295. 困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、中央値以上群で 14.1 点、困窮度Ⅰ群で 12.8 点であった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(家の手伝いをするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10④)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

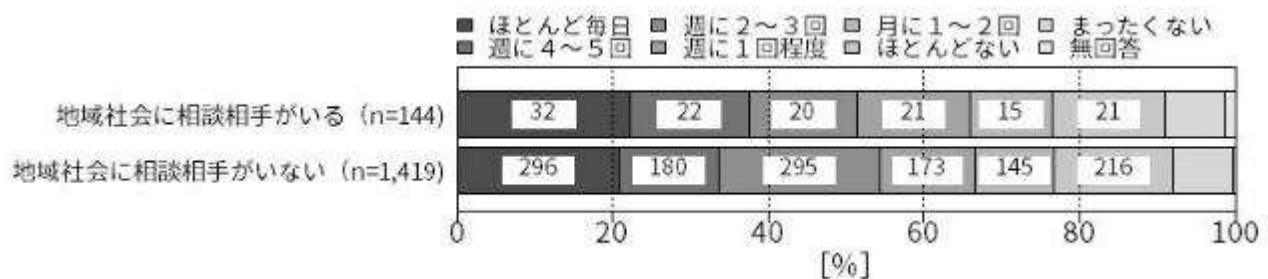


図 296. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(家の手伝いをするか)

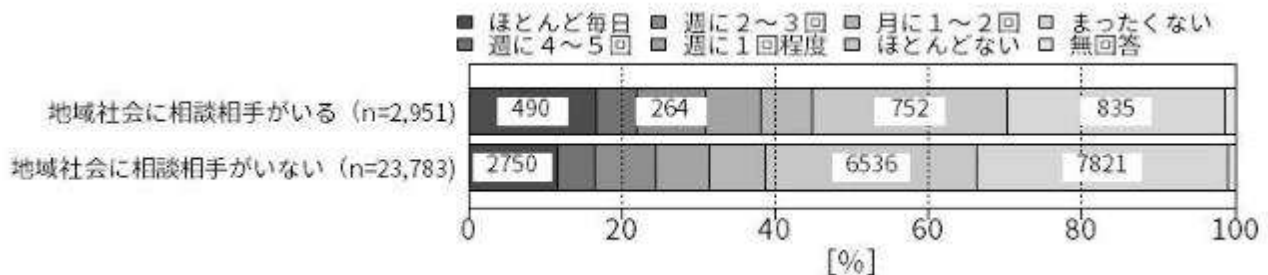
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「おうちの手伝いをするか」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人に宿題をみてもらうか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑤)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

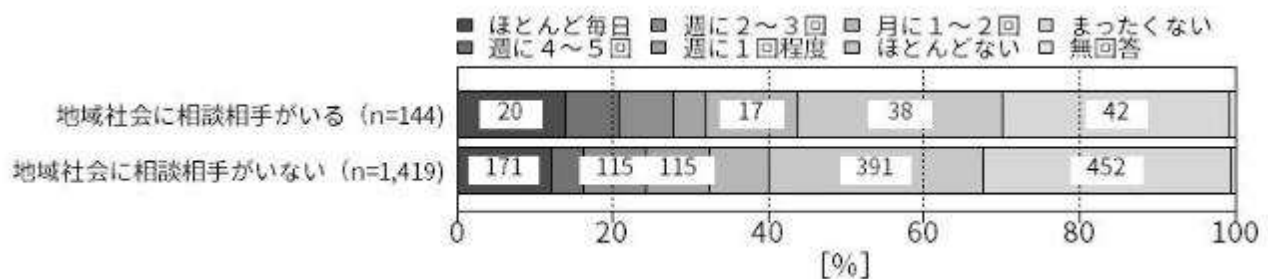


図 297. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人に宿題をみてもらうか)

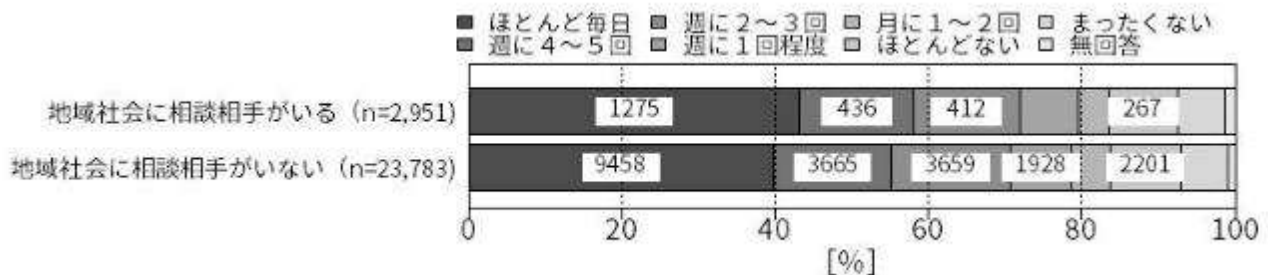
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっている」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と学校の話をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑥)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

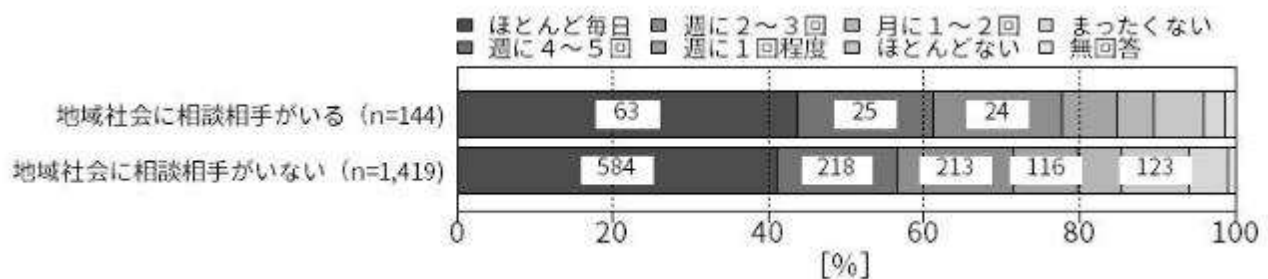


図 298. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と学校の話をするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人のひとと学校のできごとについて話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑦)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

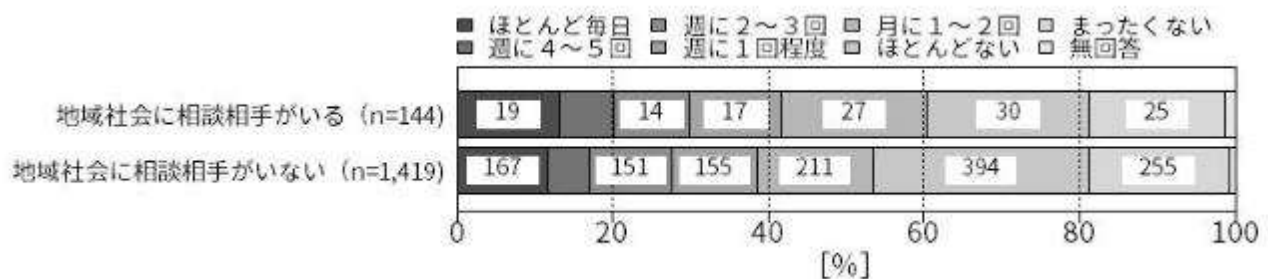


図 299. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

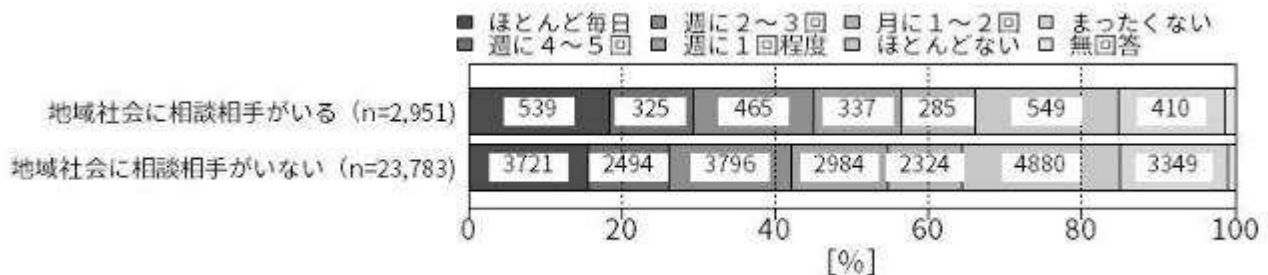
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが「おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりする」に差はなかった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と社会のできごとを話すか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑧)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

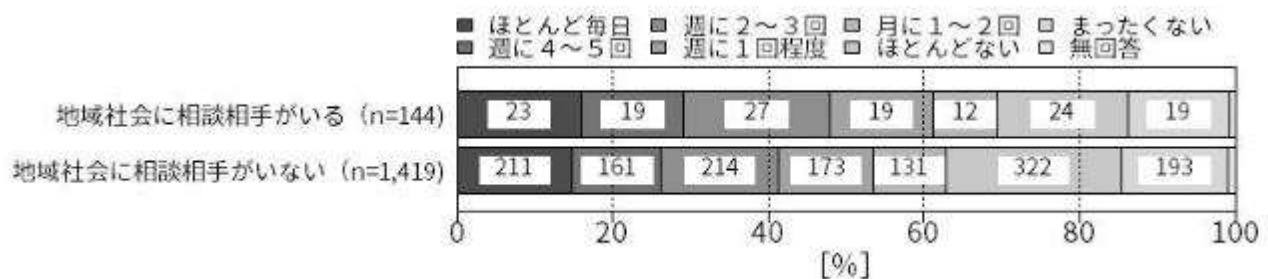


図 300. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と社会のできごとを話すか)

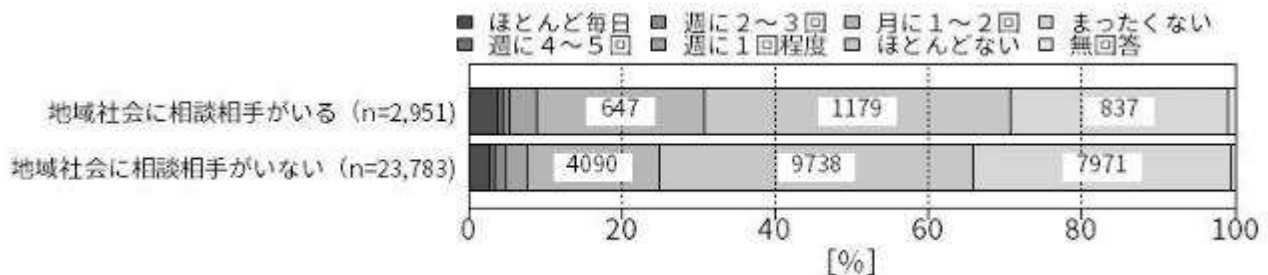
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「ニュースなど社会のできごとを話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と文化活動をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑨)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

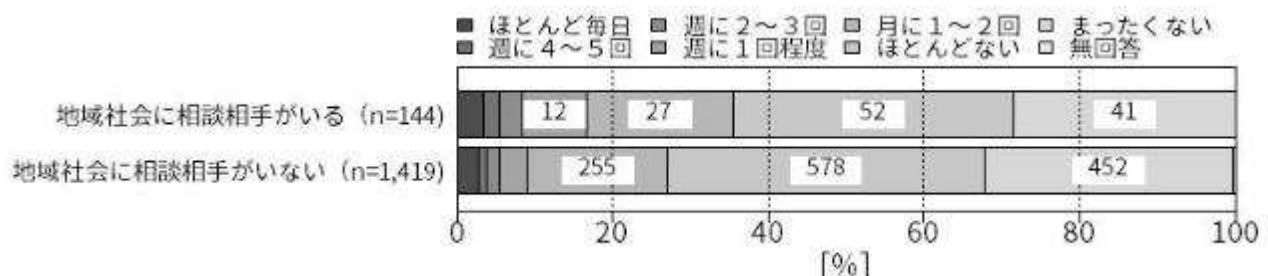


図 301. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と文化活動をするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、「おうちの大人と文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をする」に「まったく」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と一緒に外出するか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑩)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

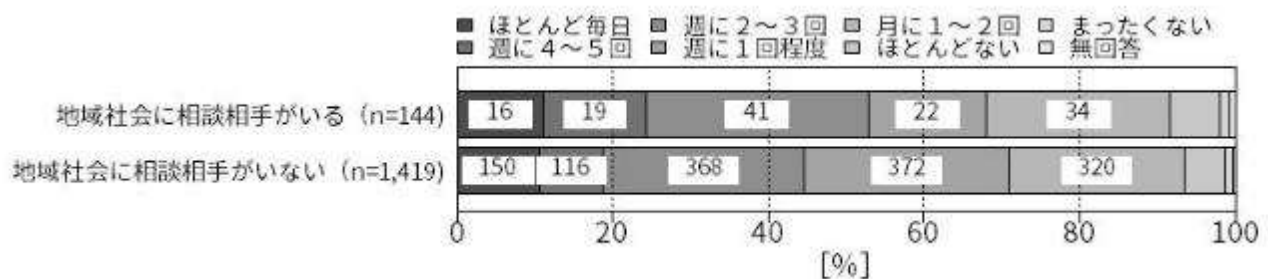


図 302. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と一緒に外出するか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが地域社会に相談相手がいるかいないかによって「おうちの大人の人と一緒に外出する」に差はなかった。

＜対人関係に関する考察＞

子ども・保護者の社会的な対人関係について、困窮度や世帯構成などの視点から結果を述べる。子どもが放課後に過ごす場所に関し、困窮度が高まるにつれて「塾」「習い事」の割合が減少し、一方で「おばあちゃん・おじいちゃんの家」「学童保育」については増加する傾向にあった。習い事等の月謝の工面と関係しているものと推測される。また「スーパーやショッピングモール」「コンビニエンスストア」「ゲームセンター」と答えた割合をあわせると、中央値以上群では8.9%、困窮度Ⅰ群では19.3%と困窮度に沿って増える傾向が伺えた。

続いて子どもが誰と放課後を過ごすかを見てみると、困窮度が高まるにつれて「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」と回答する割合が減少する傾向にあった。「ひとりでいる」と答えた割合は困窮度Ⅱ群を除きいずれの群でも18%前後であったが、一方、自分の子どもが放課後ひとりで過ごしていると考えている保護者は困窮度を問わず3%程度であった。すなわち放課後の過ごし方で保護者の認識と実態とがかい離している状況が確認された。

子どもの悩んでいることを困窮度の視点から見ると、中央値以上群、困窮度Ⅲ群に比べて、困窮度Ⅱ群、困窮度Ⅰ群では「学校や勉強のこと」「その他のこと」と答えた割合が多かった。その悩んでいることを相談する相手について、困窮度との明確な関係性は見受けられなかった一方で、「だれにも相談できない」「だれにも相談したくない」と答えた割合は困窮度を問わず15%程度存在した。嫌な事や悩みを抱えたまま生活することを強いて、精神的な衛生状態に影響を与えていることが推測されるため、子どもにとって相談しやすい環境づくりが必要であると言える。

保護者の相談相手や相談先においては、困窮度が高まるにつれて「配偶者・パートナー」「自分の親」「配偶者・パートナーの親」と回答する割合が減少した。また「公的機関や役所の相談員」と回答する割合は、中央値以上群に比べ困窮度3群とも高い状況にあった。また世帯種別に関しては、「相談できる相手がいない」との回答は、母子世帯では2.9%、父子世帯では8.7%と、ふたり親世帯の1.3%に比べると高かった。母子世帯では「職場関係者」、父子世帯では「学校の先生やスクールカウンセラー」と回答する割合が高く、ひとり親世帯といえども父子世帯と母子世帯とでは生活圏・生活環境が異なるため、それぞれに適した支援を行っていく必要があると推測される。

地域社会に相談相手がいる場合はいない場合に比べて、家の手伝い、学校の話「ほとんど毎日する」の割合が高く、家庭内でのコミュニケーションの活発化が見受けられる。

B. 5歳児保護者調査報告書

1. 回答者の属性

5歳児-1 続柄

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

大阪市鶴見区では、「お母さん」が82.7%、「お父さん」が5.4%、「おばあさん・おじいさん」が該当なし、「おじ、おばなど親戚」が0.1%、「施設職員・ファミリーホーム・里親」が0.1%、「その他の人」が該当なし、「無回答」が11.6%であった。

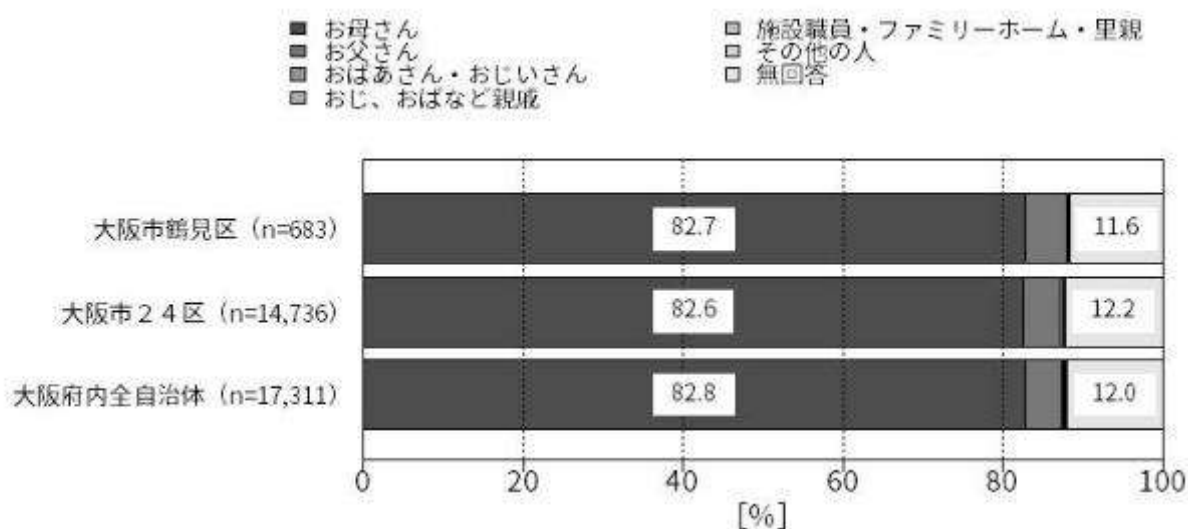


図 1. 回答者の続柄

2. 単純集計

(1) 経済状況

5歳児-41-4 世帯収入額

(4) 前年(2015年)のあなたの世帯の収入の合計額は、およそいくらでしたか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

大阪市鶴見区では、「350～400万円未満」が9.2%、「400～450万円未満」が8.1%、「450～500万円未満」が7.9%、「わからない」が7.6%、「550～600万円未満」が7.2%の順に高くなっている。(グラフは大阪市24区・大阪府内全体のもののみ)

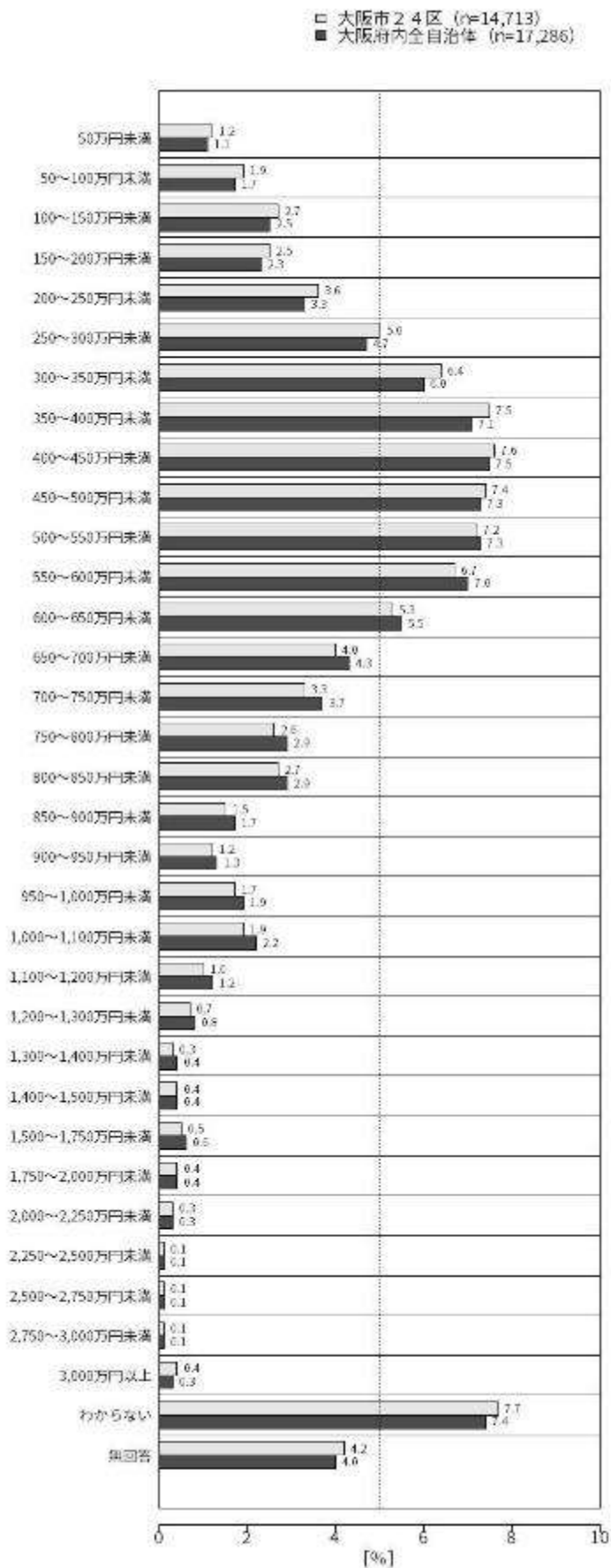


図 2. 世帯収入額

等価可処分所得に基づく困窮度の分類

表 1. 大阪市5歳児保護者困窮度別人数

困窮度分類	人数	%
中央値以上	6657	52.5
困窮度Ⅲ	3749	29.6
困窮度Ⅱ	774	6.1
困窮度Ⅰ	1500	11.8
合計	12680	100.0